

阿南工業高等専門学校				一般教科（平成25年度以前入学生）				開講年度				平成24年度（2012年度）															
学科到達目標																											
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分				
						1年				2年				3年				4年						5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後	
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			1Q	2Q	3Q	4Q
一般	必修	基礎数学 2	0010	履修単位	4					4		4													川崎 敏和		
一般	必修	数学B	0011	履修単位	2					2		2													川崎 敏和		
一般	選択	日本語総合	0012	履修単位	2					2		2													坪井 泰士		
一般	必修	英語 2	0013	履修単位	2					2		2													城本 春佳		
一般	選択	英語B	0014	履修単位	2					2		2													勝藤 和子		
一般	選択	英会話英作文	0015	履修単位	2					2		2													プロフ ントク リスト ファー		
一般	選択	物理	0016	履修単位	2					2		2													松尾 俊寛		
一般	選択	物理実験・演習	0017	履修単位	1					2															平山 基		
一般	選択	化学 2	0018	履修単位	2					2		2													一森 勇人		
一般	選択	世界史	0019	履修単位	2					2		2													濱田 香織		
一般	選択	地理	0020	履修単位	2					2		2													宮本 覚和		
一般	選択	体育	0021	履修単位	2					2		2													新井 修		
一般	必修	英語 3	0022	履修単位	3								3		3										林田 栄治		
一般	必修	微分積分	0023	履修単位	4								4		4										川崎 敏和		
一般	必修	微分方程式	0024	履修単位	1									2											宮本 陽生		
一般	必修	数学C	0025	履修単位	1								2												宮本 陽生		
一般	選択	日本史	0026	履修単位	2								2		2										碓川 正美		
一般	選択	体育	0027	履修単位	2								2		2										新井 修		
一般	選択	日本語総合	0028	履修単位	2								2		2										錦織 浩文		
一般	選択	政治社会	0029	履修単位	2								2		2										今田 浩之		
一般	選択	英会話英作文	0030	履修単位	2								2		2										小笠原麻衣子		
一般	必修	英語総合 1	0031	学修単位	2													2							谷中 俊裕		
一般	選択	法学	0032	履修単位	2										2		2								今田 浩之		
一般	選択	哲学	0033	履修単位	2										2		2								藤居 岳人		
一般	選択	体育	0034	履修単位	1												2								新井 修		
一般	選択	化学 3	0035	学修単位	2												2										
一般	選択	英語の語彙・文法（1）	0036	履修単位	1										2										林田 栄治		
一般	選択	英語の語彙・文法（2）	0037	履修単位	1												2								勝藤 和子		
一般	選択	経済学	0038	学修単位	2																	2			今田 浩之		
一般	選択	バイオテクノロジー	0039	学修単位	2																		2		一森 勇人		
一般	選択	体育	0040	履修単位	1														2						新井 修 、中島 一		
一般	選択	英語総合 2	0041	学修単位	2													2							城本 春佳		

[illegible]

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成25年度 (2013年度)		授業科目	基礎数学 2	
科目基礎情報							
科目番号		0010		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 4	
開設学科		一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年		2	
開設期		通年		週時間数		4	
教科書/教材		数学Ⅱ（数研出版）、微分積分-改-（裳華房）/はぎ取り式練習ドリル数学Ⅱ、Ⅲ（数研出版）					
担当教員		川崎 敏和					
到達目標							
1．各種方程式、不等式を自在に解くことができる。 2．方程式や不等式の表す図形や領域を作図できる。また、図形や領域を方程式や不等式で表すことができる。 3．極限と微分の計算が確実にできる。 4．微分を使って接線の方程式や増減表を求めることができる。また、増減表からグラフ描画と極値を求めることができる。 5．不定積分と定積分の計算が確実にできる。また、定積分を使って面積を求めることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		3 次以上の高次方程式の解を求めることができる。関数の増減表を使って不等式を解くことができる。		3 次方程式を因数分解し、解の公式を使って方程式、不等式を解くことができる。		3 次方程式を因数分解して、2 次以下の式の積で表すことができない。	
評価項目2		複雑な領域を方程式と不等式を用いて表すことができる。		方程式や不等式の表す図形や領域を作図できる。また、図形や領域を方程式や不等式で表すことができる。		方程式や不等式の表す図形や領域を作図できない。また、図形や領域を方程式や不等式で表すことができない。	
評価項目3		複雑な合成関数の極限や微分を計算することができる。		極限と微分の計算が確実にできる。		極限と微分の計算が確実にできない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		数学は工業高専において根幹となる科目である。					
授業の進め方・方法		本授業では、高専数学での最重要事項である各種関数の取り扱い方、方程式の解き方、微分と積分の計算とその応用方法について学習する。					
注意点		1．授業に集中して効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2．定期試験の勉強同様に、実力試験や小テストの勉強、宿題にも全力で取り組むこと。 3．宿題などの課題は、提出期限を厳守すること。					
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	方程式・式と証明		整式の乗法・除法ができる。		
		2週	方程式・式と証明		整式の除法や因数定理を使って、式を因数分解できる。		
		3週	方程式・式と証明		整式の除法や因数定理を使って、式を因数分解できる。		
		4週	方程式・式と証明		因数分解を使って、高次方程式の解を求めることができる。		
		5週	方程式・式と証明		因数分解を使って、高次方程式の解を求めることができる。		
		6週	方程式・式と証明		分数式の加減乗除の計算ができる。		
		7週	方程式・式と証明		分数式の加減乗除の計算ができる。		
	2ndQ	8週	前期中間試験				
		9週	図形と方程式		座標平面上の 2 点間の距離を求めることができる。		
		10週	図形と方程式		内分点、外分点、三角形の重心の座標を求めることができる。		
		11週	図形と方程式		内分点、外分点、三角形の重心の座標を求めることができる。		
		12週	図形と方程式		直線、円の方程式を求めることができる。		
		13週	図形と方程式		直線、円の方程式を求めることができる。		
		14週	図形と方程式		不等式の表す領域を図示できる。		
		15週	図形と方程式		不等式の表す領域を図示できる。		
後期	3rdQ	1週	微分積分の基礎		関数の極限を求めることができる。		
		2週	微分積分の基礎		微分ができる。微分係数を求めることができる。		
		3週	微分積分の基礎		関数の接線の方程式を求めることができる。		
		4週	微分積分の基礎		不定積分、定積分ができる。		
		5週	微分積分の基礎		不定積分、定積分ができる。		
		6週	微分積分の基礎		定積分を使って、図形の面積を求めることができる。		
		7週	微分積分の基礎		定積分を使って、図形の面積を求めることができる。		
		8週	後期中間試験				
	4thQ	9週	微分		分数関数、三角関数の極限を求めることができる。		
		10週	微分		分数関数、三角関数の極限を求めることができる。		
		11週	微分		積の微分、商の微分、合成関数の微分ができる。		

		12週	微分	積の微分、商の微分、合成関数の微分ができる。
		13週	微分	三角関数の計算が自在にでき、その微分ができる。
		14週	微分	三角関数の計算が自在にでき、その微分ができる。
		15週	微分	三角関数の計算が自在にでき、その微分ができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	10	0	100
基礎的能力	90	0	0	0	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成25年度 (2013年度)		授業科目	数学B
科目基礎情報						
科目番号	0011		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	「高等学校 数学B」岡部恒治ほか著 数研出版/「新課程チャート式基礎と演習 数学Ⅱ + B」					
担当教員	川崎 敏和					
到達目標						
1. ベクトルの基本的な計算ができる。 2. 平面および空間の成分表示ができ、基本的な計算ができる。 3. 平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。 4. 平面および空間内の直線・平面・円・球の方程式を求めることができる。 5. 等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができ、総和記号を用いて数列の和が計算できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	やや複雑なベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。		ベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。		ベクトルの和・差・定数倍の計算ができない。	
評価項目2	平面および空間ベクトルの成分表示ができ、複雑な計算ができる。		平面および空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。		平面および空間ベクトルの成分表示ができない、または、複雑な計算ができない。	
評価項目3	平面および空間の内積を求めることができ、内積を用いてベクトルの大きさが計算できる。		平面および空間の内積を求めることができる。		平面および空間の内積を求めることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	数学は工業高校において根幹となる科目である。本授業では、平面および空間のベクトルの概念を学習し、基本的なベクトルの計算方法を習得する。数列では規則に従って並ぶ数やその和、および漸化式概念を学習する。					
授業の進め方・方法						
注意点	1. 授業に集中し、効果的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験はもちろん重要であるが、平常の小テスト、提出物等での努力を怠らないこと。 3. 課題等提出物の提出期限は厳守すること。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	平面上のベクトルとその演算	ベクトルの定義を説明できる。 平面の和・差・定数倍の計算ができる。 平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 平面ベクトルの内積やベクトルのなす角を求めることができる。		
		2週	平面上のベクトルとその演算	ベクトルの定義を説明できる。 平面の和・差・定数倍の計算ができる。 平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 平面ベクトルの内積やベクトルのなす角を求めることができる。		
		3週	平面上のベクトルとその演算	ベクトルの定義を説明できる。 平面の和・差・定数倍の計算ができる。 平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 平面ベクトルの内積やベクトルのなす角を求めることができる。		
		4週	平面上のベクトルとその演算	ベクトルの定義を説明できる。 平面の和・差・定数倍の計算ができる。 平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 平面ベクトルの内積やベクトルのなす角を求めることができる。		
		5週	平面上のベクトルとその演算	ベクトルの定義を説明できる。 平面の和・差・定数倍の計算ができる。 平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 平面ベクトルの内積やベクトルのなす角を求めることができる。		
		6週	平面上のベクトルとその演算	ベクトルの定義を説明できる。 平面の和・差・定数倍の計算ができる。 平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 平面ベクトルの内積やベクトルのなす角を求めることができる。		
		7週	ベクトルと平面図形	位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点・外分点を求めることができる。		
		8週	ベクトルと平面図形	位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点・外分点を求めることができる。		
	2ndQ	9週	ベクトルと平面図形	位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点・外分点を求めることができる。		
		10週	ベクトルと平面図形	位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点・外分点を求めることができる。		

後期		11週	ベクトルと平面図形	位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点・外分点を求めることができる。
		12週	前期中間試験	
		13週	空間のベクトル	座標空間を理解し、座標平面に平行な平面の方程式がいえる。 空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 空間ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		14週	空間のベクトル	座標空間を理解し、座標平面に平行な平面の方程式がいえる。 空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 空間ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		15週	空間のベクトル	座標空間を理解し、座標平面に平行な平面の方程式がいえる。 空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 空間ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		16週		
	3rdQ	1週	空間のベクトル	座標空間を理解し、座標平面に平行な平面の方程式がいえる。 空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 空間ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		2週	空間のベクトル	座標空間を理解し、座標平面に平行な平面の方程式がいえる。 空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 空間ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		3週	空間のベクトル	座標空間を理解し、座標平面に平行な平面の方程式がいえる。 空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 空間ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		4週	空間のベクトル	座標空間を理解し、座標平面に平行な平面の方程式がいえる。 空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 空間ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		5週	空間のベクトル	座標空間を理解し、座標平面に平行な平面の方程式がいえる。 空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 空間ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		6週	数列とその和	等差数列の一般項やその和を求めることができる。 等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		7週	数列とその和	等差数列の一般項やその和を求めることができる。 等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		8週	数列とその和	等差数列の一般項やその和を求めることができる。 等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		9週	数列とその和	等差数列の一般項やその和を求めることができる。 等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		10週	数列とその和	等差数列の一般項やその和を求めることができる。 等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		11週	数列とその和	等差数列の一般項やその和を求めることができる。 等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		12週	後期中間試験	
		13週	漸化式	総和記号を用いた基本的な数列の和を計算することができる。
		14週	漸化式	総和記号を用いた基本的な数列の和を計算することができる。

		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	10	0	100
基礎的能力	90	0	0	0	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成25年度 (2013年度)		授業科目	英語 2
科目基礎情報						
科目番号	0013		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	POLSTAR English Communication II 及び準拠ナビゲーションノート、ワークブック Standaed (数研出版)、Data Base 3000 及び準拠定着ノートC (桐原書店) /Harvest 3rd.Ed. (桐原書店)					
担当教員	城本 春佳					
到達目標						
1. 200語～300語程度の英文を正確に理解できるようになる。 2. 教科書・語彙集などの教材で扱われている語句及び重要表現を理解し、運用できるようになる。 3. 教科書で取り上げた文法項目を理解し、運用できるようになる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	200語～300語程度の英文を精読し、内容や文の構造を正確に理解できる。		200語～300語程度の英文を精読し、内容をほぼ正確に理解できる。		左記のレベルに達しない。	
評価項目2	教科書・語彙集などの教材で学習した語彙・表現を適切な文脈において理解し、自ら運用できる。		教科書・語彙集などの教材で学習した語彙・表現を理解し、スペルを書くことができる。		左記のレベルに達しない。	
評価項目3	教科書で取り上げた文法事項や構文を適切な文脈において理解し、自ら運用できる。		教科書で取り上げた文法事項や構文を文脈の中で理解できる。		左記のレベルに達しない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	教科書の読み物の読解演習を通して、英語の4技能の総合的運用能力の向上を目指す。					
授業の進め方・方法						
注意点	1. 授業には英和辞書 (電子辞書可) を持参すること。 2. オリエンテーションで説明するやり方で十分予習・復習を行うこと。 3. 下記授業計画以外に便宜小テスト、実力テストを実施する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		シラバスの確認、学習方法の解説	
		2週	Lesson1～3		教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了不定形、不定詞の受動態、助動詞＋過去分詞、関係節の継続用法、進行形の受動態を含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。	
		3週	Lesson1～3		教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了不定形、不定詞の受動態、助動詞＋過去分詞、関係節の継続用法、進行形の受動態を含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。	
		4週	Lesson1～3		教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了不定形、不定詞の受動態、助動詞＋過去分詞、関係節の継続用法、進行形の受動態を含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。	
		5週	Lesson1～3		教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了不定形、不定詞の受動態、助動詞＋過去分詞、関係節の継続用法、進行形の受動態を含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。	
		6週	Lesson1～3		教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了不定形、不定詞の受動態、助動詞＋過去分詞、関係節の継続用法、進行形の受動態を含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。	
		7週	Lesson1～3		教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了不定形、不定詞の受動態、助動詞＋過去分詞、関係節の継続用法、進行形の受動態を含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。	
		8週	前期中間試験			

後期	2ndQ	9週	Lesson4~6	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了形の分詞構文、未来完了形、句や節を受けるwhich、be+to不定詞を含む構文を理解し、英作等に应用できるようになる。
		10週	Lesson4~6	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了形の分詞構文、未来完了形、句や節を受けるwhich、be+to不定詞を含む構文を理解し、英作等に应用できるようになる。
		11週	Lesson4~6	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了形の分詞構文、未来完了形、句や節を受けるwhich、be+to不定詞を含む構文を理解し、英作等に应用できるようになる。
		12週	Lesson4~6	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了形の分詞構文、未来完了形、句や節を受けるwhich、be+to不定詞を含む構文を理解し、英作等に应用できるようになる。
		13週	Lesson4~6	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了形の分詞構文、未来完了形、句や節を受けるwhich、be+to不定詞を含む構文を理解し、英作等に应用できるようになる。
		14週	Lesson4~6	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了形の分詞構文、未来完了形、句や節を受けるwhich、be+to不定詞を含む構文を理解し、英作等に应用できるようになる。
		15週	Lesson4~6	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 完了形の分詞構文、未来完了形、句や節を受けるwhich、be+to不定詞を含む構文を理解し、英作等に应用できるようになる。
		16週		
	3rdQ	1週	Lesson7~9	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 複合関係詞、仮定法現在を含む構文を理解し、英作等に应用できるようになる。
		2週	Lesson7~9	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 複合関係詞、仮定法現在を含む構文を理解し、英作等に应用できるようになる。
		3週	Lesson7~9	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 複合関係詞、仮定法現在を含む構文を理解し、英作等に应用できるようになる。
		4週	Lesson7~9	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 複合関係詞、仮定法現在を含む構文を理解し、英作等に应用できるようになる。
		5週	Lesson7~9	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 複合関係詞、仮定法現在を含む構文を理解し、英作等に应用できるようになる。
		6週	Lesson7~9	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 複合関係詞、仮定法現在を含む構文を理解し、英作等に应用できるようになる。

		7週	Lesson7~9	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 複合関係詞、仮定法現在を含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	Lesson10~12	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 過去分詞の分詞構文、様々な仮定法、付帯状況のwithを含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。
		10週	Lesson10~12	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 過去分詞の分詞構文、様々な仮定法、付帯状況のwithを含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。
		11週	Lesson10~12	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 過去分詞の分詞構文、様々な仮定法、付帯状況のwithを含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。
		12週	Lesson10~12	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 過去分詞の分詞構文、様々な仮定法、付帯状況のwithを含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。
		13週	Lesson10~12	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 過去分詞の分詞構文、様々な仮定法、付帯状況のwithを含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。
		14週	Lesson10~12	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 過去分詞の分詞構文、様々な仮定法、付帯状況のwithを含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。
		15週	Lesson10~12	教科書で扱った英文の構造と意味を正確に理解できるようになる。 教科書・語彙集で扱った単語及び重要表現を理解し、運用できる。 過去分詞の分詞構文、様々な仮定法、付帯状況のwithを含む構文を理解し、英作等に応用できるようになる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	20	10	100
基礎的能力	60	0	0	10	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成25年度 (2013年度)	授業科目	英会話英作文
科目基礎情報					
科目番号	0015		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Identify, Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iida, Oxford University Press2004				
担当教員	プロフント クリストファー				
到達目標					
1. Improve basic communication skill 2. Gain confidence in speaking, listening, and writing skills 3. Develop listening strategies using native English 4. Develop common sense and critical thinking skills, especially regarding communication					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		Students are able to converse smoothly with one another and the native teacher.	Students can answer a question or make a comment in a few words and speak freely in a group.	Students cannot understand the majority of exercises and activities and cannot speak easily.	
評価項目2		Students speak their opinions directry and utilize critical thinking skills in English.	Students can answer the majority of questions, listen attentively and write their ideas clearly.	Students remain passive, do not express themselves and cannot comprehend the lecture.	
評価項目3		Students can take notes entirely in English, and can present their ideas clearly and concisely.	Students can take notes in Japanese, and grasp the main idea of the lecture but not the details.	Students can take notes in Japanese and do not understand much of the lecture.	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要		This course uses basic English which is necessary to understand intercultural relations. We will do extensive speaking and listening exercises. Reading and writing communication exercises will also be given daily.			
授業の進め方・方法					
注意点		1. Students will come to class prepared. 2. Sleeping in class or using a cell phone (keitai) in class equals one tardiness on the first warning. 3. Students will keep their name tag on the desk durling the class. 4. Students will laugh and have fun.			
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Unit1 Identity	Characteristics, Feelings and Beliefs	
		2週	Unit1 Identity	Characteristics, Feelings and Beliefs	
		3週	Unit2 Values	Families, Cultures and Personalities	
		4週	Unit2 Values	Families, Cultures and Personalities	
		5週	Unit3 Culture Shock	LIfе Experiences, Confusion when Traveling Abroad	
		6週	Unit3 Culture Shock	LIfе Experiences, Confusion when Traveling Abroad	
		7週	Unit3 Culture Shock	LIfе Experiences, Confusion when Traveling Abroad	
		8週	Mid Term Exam		
	2ndQ	9週	Unit4 Culture in Language	Language reflects the culture of people who speak it.	
		10週	Unit4 Culture in Language	Language reflects the culture of people who speak it.	
		11週	Unit5 Body Language and Customs	Customs and Non-verbal Communication	
		12週	Unit5 Body Language and Customs	Customs and Non-verbal Communication	
		13週	Unit6 Individualism	Independent vs Collectivist Culture	
		14週	Unit6 Individualism	Independent vs Collectivist Culture	
		15週	Unit6 Individualism	Independent vs Collectivist Culture	
		16週			
後期	3rdQ	1週	Unit7 Politeness	Courtesy and Respect, Formal vs Casual	
		2週	Unit7 Politeness	Courtesy and Respect, Formal vs Casual	
		3週	Unit8 Communication Styles	Reserved, Flexible and Expressive style	
		4週	Unit8 Communication Styles	Reserved, Flexible and Expressive style	
		5週	Unit9 Gender and Culture	Men and Women; Different contexts and cultures	
		6週	Unit9 Gender and Culture	Men and Women; Different contexts and cultures	
		7週	Unit9 Gender and Culture	Men and Women; Different contexts and cultures	
		8週	Second Mid Term Exam		
	4thQ	9週	Unit10 Diversity	Stereotypes, Racism, Interest in Diversity	
		10週	Unit10 Diversity	Stereotypes, Racism, Interest in Diversity	
		11週	Unit11 Social Culture	Discrimination. Modern Times. Traditional Values	

		12週	Unit11 Social Culture	Discrimination, Modern Times, Traditional Values
		13週	Unit12 Global Community	Various cultures with good relationships
		14週	Unit12 Global Community	Various cultures with good relationships
		15週	Unit12 Global Community	Various cultures with good relationships
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	5	0	5	20	10	100
基礎的能力	60	5	0	5	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成25年度 (2013年度)		授業科目	物理
科目基礎情報						
科目番号	0016		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	物理基礎、物理 (数研) /リードα (数研)					
担当教員	松尾 俊寛					
到達目標						
1. 物体の基本的な運動において力学的エネルギー保存則を表す式を立てることができる 2. 運動量や力積を用いて速度の変化や加えられた力を求めることができる 3. 円運動や単振動に関する基本的な問題を扱うことができ、周期などの物理量を求めることができる 4. 熱量の保存を用いて物体の熱容量や比熱を求めることができる 5. 熱力学第一法則にもとづいて気体の状態変化を説明できる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	力学的エネルギー保存則を表す式をたて、それを用いて物体の運動を決定することができる		物体の基本的な運動において力学的エネルギー保存則を表す式を立てることができる		物体の基本的な運動において力学的エネルギー保存則を表す式を立てることができない	
評価項目2	運動方程式から運動量と力積の関係を説明でき、それらを用いて運動の諸量を求め得ることができる		運動量や力積を用いて速度の変化や加えられた力を求めることができる		運動量や力積を用いて速度の変化や加えられた力を求めることができない	
評価項目3	円運動と単振動の関係を説明でき、お互いの問題解決に利用することができる		円運動や単振動に関する基本的な問題を扱うことができ、周期などの物理量を求めることができる		円運動や単振動に関する基本的な問題を扱うことができ、周期などの物理量を求めることができない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	物理学は自然現象の探求を目的として発展した学問であるが、その成果は現代科学技術の基礎としてあらゆる分野に使われている。					
授業の進め方・方法	本講義では、物理学の学習を通じて自然現象を系統的・論理的に考えていく力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身につける。2年では、力学、熱力学を中心に学習する。					
注意点	予習・講義・演習・復習・小テストで自分の理解度を確認しながら学習を進めてください。なお、本講義は前期開講の「物理実験・演習」とリンクしています。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	仕事と力学的エネルギー		仕事とエネルギーの関係を説明できる	
		2週	仕事と力学的エネルギー		仕事とエネルギーの関係を説明できる	
		3週	仕事と力学的エネルギー		仕事とエネルギーの関係を説明できる	
		4週	運動量の保存		運動量保存則を用いて物体の速度を計算できる	
		5週	運動量の保存		運動量保存則を用いて物体の速度を計算できる	
		6週	運動量の保存		運動量保存則を用いて物体の速度を計算できる	
		7週	運動量の保存		運動量保存則を用いて物体の速度を計算できる	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	円運動		円運動する物体の速度、加速度の関係をつかって円運動を説明できる	
		10週	円運動		円運動する物体の速度、加速度の関係をつかって円運動を説明できる	
		11週	円運動		円運動する物体の速度、加速度の関係をつかって円運動を説明できる	
		12週	単振動		単振動の運動方程式を扱うことができ、周期などの基本的諸量が計算できる	
		13週	単振動		単振動の運動方程式を扱うことができ、周期などの基本的諸量が計算できる	
		14週	万有引力		2 物体間の間に働く万有引力を求めることができる	
		15週	万有引力		2 物体間の間に働く万有引力を求めることができる	
		16週				
後期	3rdQ	1週	熱とエネルギー		熱量の保存を用いて物体の比熱を計算できる	
		2週	熱とエネルギー		熱量の保存を用いて物体の比熱を計算できる	
		3週	熱とエネルギー		熱量の保存を用いて物体の比熱を計算できる	
		4週	気体の法則		気体の法則を用いて気体の状態を計算できる	
		5週	気体の法則		気体の法則を用いて気体の状態を計算できる	
		6週	気体分子の運動		気体分子の運動によって温度や圧力などの巨視的量を説明できる	
		7週	気体分子の運動		気体分子の運動によって温度や圧力などの巨視的量を説明できる	
		8週	後期中間試験			
	4thQ	9週	熱力学第一法則と気体の状態変化		熱力学第一法則により気体の状態変化を説明でき、状態量の計算ができる	
		10週	熱力学第一法則と気体の状態変化		熱力学第一法則により気体の状態変化を説明でき、状態量の計算ができる	

		11週	熱力学第一法則と気体の状態変化	熱力学第一法則により気体の状態変化を説明でき、状態量の計算ができる
		12週	不可逆変化と熱機関	熱が関与する変化は一般に不可逆であることを説明できる
		13週	不可逆変化と熱機関	熱が関与する変化は一般に不可逆であることを説明できる
		14週	波の性質	波の基本的性質を理解し、波の速さや振動数を計算できる
		15週	波の性質	波の基本的性質を理解し、波の速さや振動数を計算できる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	20	10	100
基礎的能力	40	0	0	10	10	10	70
専門的能力	20	0	0	0	5	0	25
分野横断的能力	0	0	0	0	5	0	5

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成25年度 (2013年度)		授業科目	化学 2	
科目基礎情報							
科目番号	0018		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年		2		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	高等学校 化学 I 基礎 (第1学習社) /これでわかる化学 (三共出版)						
担当教員	一森 勇人						
到達目標							
1. 酸化還元反応の量的な計算ができる。 2. 無機物質の特徴を理解できる。 3. 有機化合物の特徴を理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		酸化還元反応を理解して量的な計算ができる。		酸化還元反応の量的な計算ができる。		酸化還元反応の量的な計算ができない。	
評価項目2		無機物質の特徴を理解でき、説明できる。		無機物質の特徴を理解できる。		無機物質の特徴を理解できない。	
評価項目3		有機化合物の特徴を理解でき、説明できる。		有機化合物の特徴を理解できる。		有機化合物の特徴を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		本講義は1年の学習をふまえて、さらに深い化学的知識を身につけることを目的としている。					
授業の進め方・方法		先ず、酸化還元反応について学んだ後、無機物質・有機物質の諸性質について学習していく。					
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	酸化還元反応		酸化と還元		
		2週	酸化還元反応		酸化と還元		
		3週	酸化還元反応		酸化剤と還元剤の反応		
		4週	酸化還元反応		酸化剤と還元剤の反応		
		5週	酸化還元反応		金属のイオン化傾向		
		6週	酸化還元反応		金属のイオン化傾向		
		7週	酸化還元反応		金属のイオン化傾向		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	酸化還元反応		酸化還元反応の利用		
		10週	酸化還元反応		酸化還元反応の利用		
		11週	酸化還元反応		電池		
		12週	酸化還元反応		電池		
		13週	酸化還元反応		電気分解		
		14週	酸化還元反応		電気分解		
		15週	酸化還元反応		電気分解		
		16週					
後期	3rdQ	1週	無機物質		非金属元素の単体と化合物		
		2週	無機物質		非金属元素の単体と化合物		
		3週	無機物質		典型金属元素の単体と化合物		
		4週	無機物質		典型金属元素の単体と化合物		
		5週	無機物質		遷移元素の単体と化合物		
		6週	無機物質		遷移元素の単体と化合物		
		7週	無機物質		遷移元素の単体と化合物		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	有機物質		有機化合物の特徴と分類		
		10週	有機物質		脂肪族炭化水素		
		11週	有機物質		脂肪族炭化水素		
		12週	有機物質		酸素を含む脂肪族化合物		
		13週	有機物質		酸素を含む脂肪族化合物		
		14週	有機物質		芳香族化合物		
		15週	有機物質		芳香族化合物		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	10	10	100

基礎的能力	60	0	0	0	10	10	80
專門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成25年度 (2013年度)		授業科目	世界史
科目基礎情報						
科目番号	0019		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	世界史B（東京書院）/歴史年表（東京書院）					
担当教員	濱田 香織					
到達目標						
1. 日本列島の歴史と関連付けながら世界の歴史を理解できる。 2. 人類が各地の自然環境に適応しながら、諸文明を築き上げ、地域世界を形成したことを理解できる。 3. 民族問題などの文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から説明できる。 4. 現代社会におけるあらゆる問題が地球規模のものであることを理解し、将来の課題を考えることができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	日本列島の歴史と関連付けながら世界の歴史に関する基礎的な知識について、詳細に説明できる。		日本列島の歴史と関連付けながら世界の歴史に関する基礎的な知識について、説明できる。	日本列島の歴史と関連付けながら世界の歴史に関する基礎的な知識について、十分に説明できない。		
評価項目2	人類が築いた諸文明に関する基礎的な知識について、詳細に説明できる。		人類が築いた諸文明に関する基礎的な知識について、十分に説明できる。	人類が築いた諸文明に関する基礎的な知識について、十分に説明できない。		
評価項目3	民族問題などの文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から詳細に説明できる。		民族問題などの文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から説明できる。	民族問題などの文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から十分に説明できない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	世界の歴史への興味・関心を高め、世界の歴史の大きな枠組みと流れを理解する。世界史の学習により、日本の歴史を世界の様々な地域の歴史と比較して考察する力や日本を外から見る視点を養う。国家間や国家内でみられる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から理解し、文化に多様性を認識し、お互いの文化を尊重する態度を身につける。					
授業の進め方・方法						
注意点	講義での学習内容を定期試験で確認しますので、講義を毎回しっかり聴くことを心がけてください。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	さまざまな地域世界	オリエント世界と東地中海世界・地中海世界の成り立ちを説明できる。		
		2週	さまざまな地域世界	世界・地中海世界の成り立ちを説明できる。		
		3週	さまざまな地域世界	南アジア世界・東アジア世界における各王朝について説明できる。		
		4週	さまざまな地域世界	南アジア世界・東アジア世界における各王朝について説明できる。		
		5週	さまざまな地域世界	内陸ユーラシア世界・東南アジア世界・古アメリカ世界について説明できる。		
		6週	結び合う地域世界	イスラーム世界の形成について説明できる。		
		7週	結び合う地域世界	イスラーム世界の形成について説明できる。		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	結び合う地域世界	ヨーロッパ世界の形成について説明できる。		
		10週	結び合う地域世界	ヨーロッパ世界の形成について説明できる。		
		11週	結び合う地域世界	東アジア世界の変容とモンゴル帝国について説明できる。		
		12週	結び合う地域世界	東アジア世界の変容とモンゴル帝国について説明できる。		
		13週	一体化する世界	ユーラシア諸帝国の繁栄について説明できる。		
		14週	一体化する世界	近世のヨーロッパについて説明できる。		
		15週	一体化する世界	近世のヨーロッパについて説明できる。		
		16週				
後期	3rdQ	1週	一体化の進展と世界の再編	欧米における工業化と国民国家の形成について説明できる。		
		2週	一体化の進展と世界の再編	欧米における工業化と国民国家の形成について説明できる。		
		3週	一体化の進展と世界の再編	欧米における工業化と国民国家の形成について説明できる。		
		4週	一体化の進展と世界の再編	産業資本主義の発展と帝国主義について説明できる。		
		5週	一体化の進展と世界の再編	産業資本主義の発展と帝国主義について説明できる。		
		6週	一体化の進展と世界の再編	アジア諸地域に変革運動について説明できる。		
		7週	一体化の進展と世界の再編	アジア諸地域に変革運動について説明できる。		
		8週	後期中間試験			
	4thQ	9週	地球世界の成立	世界戦争が起きた背景とその経過を説明できる。		
		10週	地球世界の成立	世界戦争が起きた背景とその経過を説明できる。		
		11週	地球世界の成立	世界戦争が起きた背景とその経過を説明できる。		

		12週	地球世界の成立	国民国家体制と東西の対立について説明できる。
		13週	地球世界の成立	国民国家体制と東西の対立について説明できる。
		14週	地球世界の成立	経済のグローバル化と地域統合について説明できる。
		15週	地球世界の成立	新しい国際秩序について理解し、諸課題への取り組みを考えることができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成25年度 (2013年度)		授業科目	地理
科目基礎情報						
科目番号	0020		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	新詳地理(帝国書院)/新詳高等地図(帝国書院)					
担当教員	宮本 寛和					
到達目標						
1. 自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化に関する地域性について系統地理的に理解できる。 2. 現代世界を構成する各地域を地誌的に考察し、多様な特色を持っていることを理解できる。 3. 地理的に考察する意義や有用性に気づき、地理的な見方や考え方を身につけられる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	自然環境と人間生活のかかわりと地域性について、地理的事象から課題を設定し、追究できる。		自然環境と人間生活のかかわりと地域性を系統地理的に理解し、それらの知識を身につけて説明できる。		自然環境と人間生活について、個別の事象のみ説明できる。	
評価項目2	現代社会の各地域に関する資料や情報を地誌的に追究する技能を身につけ、まとめることができる。		現代社会の各地域について、多様な特色があることを理解し、それらの知識を身につけて説明できる。		現代社会の各地域について、特定の国・項目についてのみ説明できる。	
評価項目3	現代世界の多様性や地域性をとらえる視点や方法を考察し、系統地理・地誌の両面から説明できる。		地理的に考察する意義と有用性に気づき、現代世界と日本を概観し、地理的事象について説明できる。		地図を見て、現代社会の各地域の位置と地形のみ説明できる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。					
授業の進め方・方法						
注意点	都道府県名や主要国名、首都名などは地理学習の基本です。地図帳を開く習慣を身につけてください。					
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標
		1週	地理情報と地図、地図の活用			地図でとらえる現代世界について、地図化のメリットや地図化だわかることを考察し、地図化の技能を習得している。
		2週	自然環境			地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。
		3週	自然環境			地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。
		4週	自然環境			地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。
		5週	自然環境			地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。
		6週	自然環境			地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。
		7週	自然環境			地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。
	8週	資源と産業			産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
	2ndQ	9週	資源と産業			産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。
		10週	資源と産業			産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。
		11週	資源と産業			産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。
		12週	資源と産業			産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。
		13週	資源と産業			産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。
		14週	資源と産業			産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。
		15週	前期末試験			
16週						
後期	3rdQ	1週	人口、村落・都市			村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。
		2週	人口、村落・都市			村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。
		3週	人口、村落・都市			村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。

		4週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
		5週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
		6週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
		7週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
		8週	現代世界の地域区分	地域区分の目的と方法について理解するとともに、地域区分してとらえる有用性を理解している。
	4thQ	9週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
		10週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
		11週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
		12週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
		13週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
		14週	現代世界と日本	日本が抱える地理的な諸課題を認識し、解決の方向性を考察できる。
		15週	学年末試験	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	英語 3
科目基礎情報						
科目番号	0022		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	3		
教科書/教材	Pole Star 他/Reading Adventure 2					
担当教員	林田 栄治					
到達目標						
1. 300語～400語程度の英文を速読し大意を把握できるようにする。 2. 本文で使われている重要語句と語彙集で取り上げた語句を習得する。 3. 本文および文法参考書で取り上げた文法事項を理解する。 4. リスニング力の向上を図る。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句を、主な派生語も含め理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句をほぼ理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した語句に理解できないものが多く残っている。	
評価項目2	教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句を、主な派生語も含め理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句をほぼ理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した語句に理解できないものが多く残っている。	
評価項目3	教科書の読み物の英文で学んだ重要語句・重要文法事項を他の英文の理解にも応用できる。		教科書の読み物の英文を、パートごとに重要語句・重要文法事項を含めほぼ理解できた。		教科書の読み物の英文について、理解できないところが多く残っている。	
評価項目4	教科書の読み物を音声に合わせて十分英語らしい発音でシャドーイングできる。聞いてよくわかる。		教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句をほぼ理解できている。聞いておおむねわかる。		教科書の読み物と語彙集で学習した語句に理解できないものが多く残っている。聞いてもわからない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要						
授業の進め方・方法		速読テクニックを意識しながら、300語～400語程度の英文の読解演習を行います。授業や予復習に際しては、ワークブック・補助プリントを併用し、本文に使われた語彙や文法事項を確認し、英語の総合的運動能力の向上を目指します。文法・構文力は、2年次から使用している文法参考書・ワークブックを併用して補強します。語彙力は、1年次から使用している語彙集も用いて補強します。リスニング演習、英語DVDの視聴も行います。				
注意点		1. 授業には必ず英和辞典（電子辞書可）を持参すること。 2. 教科書の語句・語彙集の語句について適宜小テスト、課題自習プリントを課す。 3. 自習課題としてe-learningを行う。 4. 提出物の提出期限は厳守すること。				
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		2週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		3週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		4週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		5週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		6週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		7週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		8週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
	2ndQ	9週	前期中間試験			
		10週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		11週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		12週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		13週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		14週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		15週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		16週	前期末試験			
後期	3rdQ	1週	Polestar Lesson8～10 Reading Adventures Unit6～7+Review3		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。	

		2週	LListeningbText Unit1~10	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		3週	Polestar Lesson8~10 Reading Adventures Unit6~7+Review3	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		4週	LListeningbText Unit1~10	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		5週	Polestar Lesson8~10 Reading Adventures Unit6~7+Review3	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		6週	LListeningbText Unit1~10	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		7週	Polestar Lesson8~10 Reading Adventures Unit6~7+Review3	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		8週	LListeningbText Unit1~10	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
	4thQ	9週	後期中間試験	
		10週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		11週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		12週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		13週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		14週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		15週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週			
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	60	0	0	0	15	15	10	100
基礎的能力	60	0	0	0	15	15	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	微分積分
科目基礎情報						
科目番号	0023		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	4		
教科書/教材	微分積分 改訂版、矢野健太郎編、裳華房/新課程チャート式数学Ⅲ 数研練習ドリル数学Ⅲ					
担当教員	川崎 敏和					
到達目標						
1. 関数の極限の意味を理解していろいろな関数の極限計算ができる。 2. 導関数の公式および種々の計算技法を習得して微分計算ができて接線や極値が求められる。 3. 基本的な関数の不定積分と定積分の計算ができて面積や長さ計算に応用できる。 4. 偏微分の基本的な計算ができて2変数関数の極値が求められる。 5. 重積分の基本的な計算ができて体積計算に応用できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	関数の極限の意味を理解していろいろな関数の極限計算が常時できる。		関数の極限の意味を理解していろいろな関数の極限計算ができる。		関数の極限計算ができない。	
評価項目2	導関数の公式および種々の計算技法を習得して微分計算が常時でき、接線や極値などを常時求められる。		導関数の公式および種々の計算技法を習得して微分計算ができ、接線や極値が求められる。		導関数の公式および種々の計算技法を習得せず、微分の計算やその応用ができない。	
評価項目3	積分の公式や置換積分など種々の計算技法を習得して積分計算が常時でき、面積などにも常時応用できる。		積分の公式や置換積分など種々の計算技法を習得して積分計算ができ、面積などに応用できる。		積分計算ができない。定積分を面積計算に応用できない。	
評価項目4	2次までの偏微分、合成関数の偏微分、陰関数の微分の計算が常時でき、2変数関数の極値が求められる。		2次までの偏微分、合成関数の偏微分、陰関数の微分の計算ができ、2変数関数の極値が求められる。		偏導関数が計算できない。偏導関数の応用ができない。	
評価項目5	累次積分が常時計算できる。重積分が常時計算できる。重積分を応用して体積計算などが常時できる。		累次積分や重積分の計算ができる。重積分を応用して体積計算などができる。		累次積分や重積分の計算ができない。重積分が応用できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本科目では極限、微分法および積分法についての理解を深め、関数の解析、図形の計量に応用できる知識と技能を習得する。また偏微分、重積分の基本的な考え方を理解し、計算力を養う。					
授業の進め方・方法						
注意点	1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。予習復習が必須である。 2. 定期試験はもちろん重要であるが、平常の小テスト、提出物等での努力を怠らないこと。 3. 課題等提出物の提出期限を厳守すること。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	微分 数列の極限		いろいろな数列の極限を求めることができる (不定形の意味も理解している)。	
		2週	無限数列の和		基本的な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	
		3週	関数の極限		いろいろな数列の極限を求めることができ、ロピタルの定理も使える。	
		4週	微分の計算		三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	
		5週	逆三角関数とその微分		逆三角関数を理解している。逆三角関数の導関数を求めることができる。	
		6週	微分の応用 増減、極値、グラフ種々の微分		関数の増減表がかけ、関数の極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	
		7週	微分の応用 増減、極値、グラフ種々の微分		高次導関数の計算、媒介変数表示された関数の微分計算ができる。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	不定積分		分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分の計算ができる。	
		10週	不定積分		分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分の計算ができる。	
		11週	不定積分		分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分の計算ができる。	
		12週	不定積分		置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。	
		13週	不定積分		置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。	
		14週	不定積分		置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。	
		15週	不定積分		置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。	

		16週	前期期末試験	
後期	3rdQ	1週	定積分 定積分の計算技法	置換積分および部分積分を用いて、定積分を求めることができる。
		2週	定積分 定積分の計算技法	置換積分および部分積分を用いて、定積分を求めることができる。
		3週	定積分 定積分の計算技法	分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の定積分の計算ができる。
		4週	定積分 定積分の計算技法	分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の定積分の計算ができる。
		5週	定積分の応用	基本的な曲線で囲まれた図形の面積、体積、曲線の長さを求めることができる。
		6週	定積分の応用	基本的な曲線で囲まれた図形の面積、体積、曲線の長さを求めることができる。
		7週	定積分の応用	基本的な曲線で囲まれた図形の面積、体積、曲線の長さを求めることができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	偏微分 種々の偏微分計算	2変数関数の定義域やグラフを理解し、高次偏微分まで計算できる。
		10週	偏微分 種々の偏微分計算	2変数関数の定義域やグラフを理解し、高次偏微分まで計算できる。
		11週	偏導関数の応用	偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができる。
		12週	国立高専学習到達度試験	
		13週	重積分 累次積分と重積分	2重積分の定義を理解し、2重積分を累次積分に変形し計算できる。
		14週	極座標変換	順序積分の変更や極座標変換して重積分の計算ができる。
		15週	重積分の応用	2重積分を用いて基本的な立体の体積を求めることができる。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	0	0	0	10	50	100
基礎的能力	40	0	0	0	10	50	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	微分方程式		
科目基礎情報								
科目番号		0024		科目区分		一般 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科		一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年		3		
開設期		後期		週時間数		2		
教科書/教材		微分積分 改訂版 矢野健太郎 石原（裳華房）						
担当教員		宮本 陽生						
到達目標								
1. 極座標と極方程式の基本的な計算ができる。 2. 変数分離形・同次形・1階線形など基本的な微分方程式の一般解を求めることができる。 3. 定数係数2階線形微分方程式の一般解を求めることができる。 4. 変数分離形、線形微分方程式など基本的な微分方程式の特殊解を求めることができる。								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1		極座標と直交座標を相互に変換ができ、極方程式と直交座標に関する方程式を相互に変換できる。		極座標を直交座標に変換ができ、極方程式を直交座標に関する方程式に変換できる。		極座標を直交座標に変換ができない。		
評価項目2		与えられた微分方程式が変数分離形、同次形、1階線形かを判定でき、一般解を求めることができる。		変数分離形、同次形、1階線形方程式の一般解を求めることができる。		変数分離形方程式を、積分形に変形できない上に定数変化法を理解できない。		
評価項目3		非斉次項が斉次方程式の一般解に含まれている場合にも特殊解を求めることができる。		斉次方程式の一般解を求めることができ、非斉次方程式の特殊解を求めることができる。		補助方程式を求めることができない。		
評価項目4				初期条件や境界条件を理解し、一般解から特殊解を求めることができる。		初期条件・境界条件を利用して特殊解を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要		数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では、最初に極座標と極方程式について学習し、その後、基本的な微分方程式の解法を習得し、計算力を養う。						
授業の進め方・方法								
注意点		授業に集中し、効率的に学習する方法を確率すること。予習復習は必須である。 定期試験の勉強はもちろん重要であるが、平常の小テストの勉強、提出物なども努力を怠らないこと。 課題など提出物は提出期限を厳守すること。						
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	極座標		極座標の表し方を理解し、直交座標に変換でき、その逆もできる。			
		2週	極方程式		極方程式を理解し、直交座標に関する方程式に変換でき、その逆もできる。			
		3週	極方程式		極方程式を理解し、直交座標に関する方程式に変換でき、その逆もできる。			
		4週	微分方程式と解		微分方程式を理解し、与えられた関数が一般解か特殊解か判定できる。			
		5週	変数分離形微分方程式の解法		変数分離形微分方程式の一般解を求めることができる。			
		6週	変数分離形微分方程式の解法		初期条件を理解し特殊解を求めることができる。			
		7週	同次形微分方程式の解法		同次形微分方程式の一般解を求めることができる。			
		8週	後期中間試験					
	4thQ	9週	1階線形微分方程式の解法		定数変化法により1階線形微分方程式の一般解を求めることができる。			
		10週	1階線形微分方程式の解法		定数変化法により1階線形微分方程式の一般解を求めることができる。			
		11週	定数係数2階線形微分方程式の解法		斉次形を理解し、一般解を求めることができる。			
		12週	定数係数2階線形微分方程式の解法		初期条件および境界条件を理解し、特殊解を求めることができる。			
		13週			非斉次方程式を理解し、特殊解と一般解を求めることができる。			
		14週			非斉次方程式を理解し、特殊解と一般解を求めることができる。			
		15週			非斉次方程式を理解し、特殊解と一般解を求めることができる。			
		16週	後期期末試験					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	90	0	0	0	5	0	5	100

基礎的能力	90	0	0	0	5	0	5	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	数学C		
科目基礎情報								
科目番号	0025			科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）			対象学年	3			
開設期	前期			週時間数	2			
教科書/教材	「線形代数」 矢野健太郎 石原繁 （裳華房）							
担当教員	宮本 陽生							
到達目標								
1. 行列の和・差・積・実数倍、行列式の値が計算できる。 2. 掃き出し法や行列を用いて連立方程式を解くことができ、逆行列を求めることができる。 3. 1次変換、簡単な図形の像・現像を求めることができる。 4. 行列の固有値・固有ベクトルを求めて、対角化ができる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	行列式の性質を利用して行列式の値の計算ができる。			行列の和差積、および行列式の値の計算ができる。		4次の行列式の計算ができないし、行列の積も正確に計算できない。		
評価項目2	掃き出し法により、製法行列の正則性を判定できる。			掃き出し法や行列を用いて連立方程式を解くことができ、逆行列を求めることができる。		掃き出し法により逆行列を求めることができない。		
評価項目3	1次変換による簡単な図形の現像を求めることができる。			基礎的な1次変換を行列で表すことができ、1次変換による簡単な図形の像を求めることができる。		基礎的な1次変換を行列で表すことができない。		
評価項目4	正方行列の累乗を対角化を利用して計算することができる。			2次と3次の正方行列の固有値と固有ベクトルを求めることができ、それを用いて対角化できる。		2次正方行列の固有値と固有ベクトルを求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では、工学への応用で重要な役割を果たす行列と行列式の計算およびその応用を学習する。							
授業の進め方・方法								
注意点	授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。定期試験の勉強はもちろん重要であるが、平常の小テストの勉強、提出物なども努力を怠らないこと。課題など提出物は提出期限を厳守すること。							
授業計画								
		週	授業内容			週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	行列式			2次・3次の行列式の計算ができる。		
		2週	行列式			行列式の展開を利用して4次の行列式の値の計算ができる。 行列式の性質を利用して行列式の値の計算ができる。		
		3週	行列			行列の和・差・積・実数倍の計算ができる。		
		4週	連立1次方程式・逆行列			2次正方行列の逆行列を求めることができる。		
		5週	連立1次方程式・逆行列			掃き出し法により連立方程式の解、3次正方行列の逆行列を求めることができる。		
		6週	連立1次方程式・逆行列			掃き出し法により連立方程式の解、3次正方行列の逆行列を求めることができる。		
		7週	前期中間試験					
		8週	1次変換			対称移動・回転など基本的な1次変換を行列で表すことができる。		
	2ndQ	9週	1次変換			1次変換の合成変換・逆変換を求めることができる。		
		10週	1次変換			直線など基本的な平面図形の、1次変換による像・現像を求めることができる。		
		11週	1次変換			2次・3次の正方行列の固有値・固有ベクトルを求めることができる。		
		12週	固有値と固有ベクトル			正方行列の固有値・固有ベクトルを用いて対角化できる。		
		13週	固有値と固有ベクトル			正方行列の固有値・固有ベクトルを用いて対角化できる。		
		14週	固有値と固有ベクトル			正方行列の累乗を対角化を利用して計算することができる。		
		15週	固有値と固有ベクトル			正方行列の累乗を対角化を利用して計算することができる。		
		16週	前期末試験					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	90	0	0	0	5	0	5	100
基礎的能力	90	0	0	0	5	0	5	100

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	日本史	
科目基礎情報							
科目番号	0026			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	高校日本史B (山川出版社) / 写真資料館: 日本史のアーカイブ (とうほう)						
担当教員	甚川 正美						
到達目標							
1. 古代から現代に至る我が国の歴史の基礎的知識について説明できる。 2. 過去のいろいろな出来事を歴史資料を通じて明らかにし、時間の流れに即して因果関係を説明できる。 3. 世界的視野に立つて歴史の展開を考察することで、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につけられる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		古代から現代に至る我が国の歴史の基礎的知識について詳細に説明できる。		古代から現代に至る我が国の歴史の基礎的知識について、その概略を説明できる。		古代から現代に至る我が国の歴史の基礎的知識について、十分に説明できない。	
評価項目2		日本の歴史の流れについて、詳細に説明できる。		日本の歴史の流れについて、その概略を説明できる。		日本の歴史の流れについて、十分に説明できない。	
評価項目3		国際社会に生きる日本人としての自覚について、歴史の展開に即して詳細に説明できる。		国際社会に生きる日本人としての自覚について、歴史の展開に即して説明できる。		国際社会に生きる日本人としての自覚について、歴史の展開に即して十分に説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	日本史を学ぶことによって、我が国の伝統や文化を理解し、国際社会に生きる日本人としての資質を養う。特に日本文化の特色・人々の生活・都市の形成・地域同士の交流などに着目して、日本の諸地域における歴史の流れについて、教科書や歴史資料を通して理解を深める。						
授業の進め方・方法							
注意点	教科書に加えて、通常授業では歴史資料集や学習プリント等を使用する。また、ノート提出も予定しているので、「講義をしっかりと聴き、ノートをしっかりとる」ことを心がけてほしい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	原始・古代		古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。 (旧石器時代～平安中期)		
		2週	原始・古代		古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。 (旧石器時代～平安中期)		
		3週	原始・古代		古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。 (旧石器時代～平安中期)		
		4週	原始・古代		古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。 (旧石器時代～平安中期)		
		5週	原始・古代		古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。 (旧石器時代～平安中期)		
		6週	前期中間試験				
		7週	中世		武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。 (平安後期～室町)		
		8週	中世		武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。 (平安後期～室町)		
	2ndQ	9週	中世		武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。 (平安後期～室町)		
		10週	中世		武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。 (平安後期～室町)		
		11週	中世		武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。 (平安後期～室町)		
		12週	近世 (1)		幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。 (安土・桃山～江戸初期)		
		13週	近世 (1)		幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。 (安土・桃山～江戸初期)		
		14週	近世 (1)		幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。 (安土・桃山～江戸初期)		
		15週	近世 (1)		幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。 (安土・桃山～江戸初期)		
		16週	前期末試験				
後期	3rdQ	1週	近世 (2)		幕藩体制の展開や動揺の様相について理解し説明できる。 (江戸中期・後期)		

		2週	近世（２）	幕藩体制の展開や動揺の様相について理解し説明できる。 （江戸中期・後期）
		3週	近世（２）	幕藩体制の展開や動揺の様相について理解し説明できる。 （江戸中期・後期）
		4週	近代（１）	近代国家の成立の様相について理解し説明できる。 （幕末～明治）
		5週	近代（１）	近代国家の成立の様相について理解し説明できる。 （幕末～明治）
		6週	近代（１）	近代国家の成立の様相について理解し説明できる。 （幕末～明治）
		7週	近代（１）	近代国家の成立の様相について理解し説明できる。 （幕末～明治）
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	近代（２）	近代日本とアジアの関係について理解し説明できる。 （大正～戦前昭和）
		10週	近代（２）	近代日本とアジアの関係について理解し説明できる。 （大正～戦前昭和）
		11週	近代（２）	近代日本とアジアの関係について理解し説明できる。 （大正～戦前昭和）
		12週	現代	現代の世界と日本の関わりについて説明できる。 （戦後昭和～平成）
		13週	現代	現代の世界と日本の関わりについて説明できる。 （戦後昭和～平成）
		14週	現代	現代の世界と日本の関わりについて説明できる。 （戦後昭和～平成）
		15週	現代	現代の世界と日本の関わりについて説明できる。 （戦後昭和～平成）
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	体育
科目基礎情報						
科目番号	0027		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	なし					
担当教員	新井 修					
到達目標						
1. 互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2. 自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3. 運動・活動中は安全に留意して行動できる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。	自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。	自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢がみられず、活動に参加できない。		
評価項目2		自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。	教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。	教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につけることができない。		
評価項目3		活動中、自己のみならず仲間の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	活動中、自己の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	活動中、安全に留意して行動できない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	運動を行うことにより、運動することの大切さや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯に渡って運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。					
授業の進め方・方法						
注意点	普段から健康管理を心がけ、風などにより授業を見学・欠席することのないよう気をつけて下さい。 学校指定の体操服で活動して下さい。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 後期の体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	種目選択と実践 ※下記より種目を選択する。 但し、希望人数によっては実施できない場合がある。 1) バスケットボール 2) バレーボール 3) バドミントン 4) 卓球 5) テニス 6) フットサル 7) サッカー 8) ソフトボール		各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		2週	実践		各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		3週	実践		各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	実践		各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5週	実践		各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	実践		各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7週	実践		各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		8週	実践		各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。	
	2ndQ	9週	実践		各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		10週	実践		各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。	

後期		11週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。
		12週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。
		13週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		14週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		15週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		16週		
	3rdQ	1週	種目選択と実践 ※下記より種目を選択する。 但し、希望人数によっては実施できない場合がある。 1) バスケットボール 2) バレーボール 3) バドミントン 4) 卓球 5) テニス 6) フットサル 7) サッカー 8) ソフトボール	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。
		2週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。
		3週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。
		4週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。
		5週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。
		6週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。
		7週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。
		8週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。
	4thQ	9週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。
		10週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。
		11週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。
		12週	実践	各種目のルールを理解し説明できる。 各種目の基本的な個人技能を習得する。 互いに協力し、ゲームを実践できる。
		13週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		14週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		15週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	日本語総合
科目基礎情報						
科目番号	0028		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	高専日本語アビリティⅡ 山田出版/級別漢字学習 7級～2級 東京法令出版					
担当教員	錦織 浩文					
到達目標						
1. 古文・漢文に触れ、中国文化との関係を含む日本文化への理解を深め、親しむことができる。 2. 情報を収集・選択・構成し、双方向的コミュニケーションをとることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	古文・漢文の時代背景・大意を適切に説明し、よどみなく暗唱できる。		古文・漢文の時代背景・大意を説明し、暗唱できる。		古文・漢文の時代背景・大意の説明、暗唱に欠ける。	
評価項目2	口頭表現スキルを効果的に使い、情報を適切に活用した双方向コミュニケーションができる。		口頭表現スキルを用い、情報を活用した双方向コミュニケーションができる。		口頭表現スキルの使用、情報を活用した双方向コミュニケーションに欠ける。	
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	日本語の表現に関する基礎知識・技術を習得し、論理的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。					
授業の進め方・方法	授業は、表現に関する実践を基本とする。また、古文・漢文の鑑賞により社会を見つめる視野拡大の起点を獲得し、社会的データの活用や漢字学習により理解や表現の力を培う。					
注意点	毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので、各自で本を用意すること (漫画、雑誌、テキストを除く)					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		シラバスにより、到達目標、評価割合、達成度基準等を理解する。	
		2週	情報の信頼性		情報の信頼性の確保について、説明できる。	
		3週	情報の収集と分類		ブレーン・ストーミング法、K-J法について説明し、実践できる。	
		4週	情報の収集と分類		ブレーン・ストーミング法、K-J法について説明し、実践できる。	
		5週	情報の収集と分類		ブレーン・ストーミング法、K-J法について説明し、実践できる	
		6週	口頭表現		口頭表現の特徴について、説明できる。	
		7週	口頭表現		口頭表現の特徴について、説明できる。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	漢字とかな		漢字とかな等について、説明できる。	
		10週	漢字とかな		漢字とかな等について、説明できる。	
		11週	漢字とかな		漢字とかな等について、説明できる。	
		12週	プレゼンテーション		情報を収集・選択・活用し、図表を用いたプレゼンテーションを実践できる。	
		13週	プレゼンテーション		情報を収集・選択・活用し、図表を用いたプレゼンテーションを実践できる。	
		14週	プレゼンテーション		情報を収集・選択・活用し、図表を用いたプレゼンテーションを実践できる。	
		15週	プレゼンテーション		情報を収集・選択・活用し、図表を用いたプレゼンテーションを実践できる。	
		16週	前期期末試験			
後期	3rdQ	1週	古文		枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。	
		2週	古文		枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。	
		3週	古文		枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。	
		4週	古文		枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。	
		5週	漢文		論語の背景・大意を理解し、暗唱できる。	
		6週	後期中間試験			
		7週	小論文		情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べることができる。	
		8週	小論文		情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べることができる。	
	4thQ	9週	小論文		情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べることができる。	
		10週	小論文		情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べることができる。	

		11週	小論文	情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べる ことができる。
		12週	グループ・ディスカッション	グループ・ディスカッション技法を理解し、実践 できる。
		13週	グループ・ディスカッション	グループ・ディスカッション技法を理解し、実践 できる。
		14週	学年末試験	
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	5	0	0	20	5	100
基礎的能力	70	5	0	0	20	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	政治社会
科目基礎情報						
科目番号	0029		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教養の政治学・経済学 (学術図書出版社)					
担当教員	今田 浩之					
到達目標						
1. 民主政治の基本理論として社会契約説を説明できる。 2. 日本国憲法を基軸に現在の政治制度を説明できる。 3. 現在の国民経済や経済関連の諸政策を説明できる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		民主政治の基本理論として社会契約説を説明できる。	社会契約説の基本枠組を説明できる。	社会契約説の基本枠組を説明できない。		
評価項目2		現在の政治制度の基本原理・制度・運用を説明できる。	現在の政治制度の基本構造を説明できる。	現在の政治制度の基本構造を説明できない。		
評価項目3		現在の国民経済の問題点や経済関連の諸政策を説明できる。	現在の国民経済や経済関連の諸政策を説明できる。	現在の国民経済や経済関連の諸政策を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	この科目では、民主政治のあり方と経済社会の仕組みについて包括的に学習する。					
授業の進め方・方法	授業では、まず、民主主義の基本原理を理解した上で、現在の政治制度を、日本国憲法を基軸に考察する。今日的な人権問題や社会問題についても学ぶ。次いで、経済の基礎概念を理解した上で、現在の国民経済の把握方法や経済関連の諸政策を考察する。現代企業論についても学ぶ。以上により、政治と経済の基本的論点について説明できる能力を身につける。					
注意点	日常的に、政治や経済の問題について主体的に関心を持つようにして下さい。 時事的な話題や自分の身の回りの政治や経済に目を向け、授業との関連づけをしましょう。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	政治原論	社会と政治、社会契約説の基本枠組について説明できる。		
		2週	政治原論	社会と政治、社会契約説の基本枠組について説明できる。		
		3週	政治各論 「大日本帝国憲法」 「日本国憲法」	天皇大権、統治機構、臣民の権利について説明できる。		
		4週	「大日本帝国憲法」 「日本国憲法」	天皇大権、統治機構、臣民の権利について説明できる。		
		5週	国民主権・権力分立	主権、国民主権、権力分立について説明できる。		
		6週	国民主権・権力分立	主権、国民主権、権力分立について説明できる。		
		7週	前期中間試験			
		8週	国会・選挙制度・政党	国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。		
	2ndQ	9週	国会・選挙制度・政党	国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。		
		10週	国会・選挙制度・政党	国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。		
		11週	国会・選挙制度・政党	国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。		
		12週	内閣・官僚制	議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。		
		13週	内閣・官僚制	議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。		
		14週	内閣・官僚制	議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。		
		15週	内閣・官僚制	議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。		
		16週	前学期期末試験			
後期	3rdQ	1週	裁判所・基本的人権	司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。		
		2週	裁判所・基本的人権	司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。		
		3週	裁判所・基本的人権	司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。		
		4週	裁判所・基本的人権	司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。		
		5週	圧力団体・世論	日本の圧力団体、世論について説明できる。		
		6週	経済原論	経済理論、経済体制、経済主体、経済活動について説明できる。		

		7週	経済各論 市場経済と価格機構	市場機構、独占・寡占について説明できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	国民経済	国民取得、国富について説明できる。
		10週	国民経済	国民取得、国富について説明できる。
		11週	景気循環	景気変動、景気指標について説明できる。
		12週	経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
		13週	経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
		14週	経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
		15週	現代企業論	企業組織、企業の社会的責任について説明できる。
		16週	後学期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	30	0	90
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	英会話英作文	
科目基礎情報							
科目番号	0030			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	Person to Person Student Books (Oxford University Press) 、集中 2 週間完成英作文【高校初級用】(日栄社)						
担当教員	小笠原 麻衣子						
到達目標							
1. テキストの内容を理解し、グループやペアで積極的に発言をし、自信を持って英語でコミュニケーションできるようになる。 2. 学習した構文を応用しながら 1 0 0 words 程度の自由作文をほとんどミスなく書いて自己表現できるようになる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		テキストのトピックに関する内容を理解し、会話が実践できる。テキストのトピックに関する内容を十分理解し、自信を持って積極的に会話が実践できる。		テキストのトピックに関する内容を理解し、会話が実践できる。		テキストのトピックに関する内容が十分に理解できず、会話を実践することが困難である。	
評価項目2		構文を理解し、それを自分で応用することができ、自分の考えを英語で表現できる。		構文を理解し、指導者のサポートによりそれを応用可能。英語で自己表現しようとする姿勢がある。		構文が十分理解できず、その応用が困難。英語をまとまった考えで表現できない。	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		1、2 年で身につけた基本的な英会話スキルや欧米文化の知識を基に、さらに話題を広げてスピーキングやライティングのスキルの向上を目指して講義を進めていきます。スピーキング活動ではグループやペアの活動で発話の機会を増やし、実践力を養っていきます。ライティング活動では、基本的な構文を受講者が自立的に復習し授業準備（予習）をしてから参加してもらいます。					
授業の進め方・方法		授業では、その構文を用いた英作文を多くこなしライティング力を向上させていきます。前期、後期、各一回のオーラルチェックと自由作文で英語で自己表現できるように日々の講義で動機付けしていきます。					
注意点		1. 授業には、辞書を持参する。（電子辞書の方が好ましい。携帯電話は不可。） 2. 予習や小テストを確実にこなす。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	英会話		友人の紹介、電話での対応など日常会話を理解して実践することができる。		
		2週	英会話		など日常会話を理解して実践することができる。		
		3週	英会話		など日常会話を理解して実践することができる。		
		4週	英会話		など日常会話を理解して実践することができる。		
		5週	英作文		疑問詞、命令文などの構文を理解し、活用することができる。		
		6週	英作文		疑問詞、命令文などの構文を理解し、活用することができる。		
		7週	英作文		疑問詞、命令文などの構文を理解し、活用することができる。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	英会話		助言、提案、病院でのやりとりなどの会話を理解して実践することができる。		
		10週	英会話		助言、提案、病院でのやりとりなどの会話を理解して実践することができる。		
		11週	英会話		助言、提案、病院でのやりとりなどの会話を理解して実践することができる。		
		12週	英作文		時制、助動詞などの構文を理解し、活用することができる。		
		13週	英作文		時制、助動詞などの構文を理解し、活用することができる。		
		14週	英作文		時制、助動詞などの構文を理解し、活用することができる。		
		15週	自由作文、オーラルチェック		100words 程度の作文とそれを基とした口頭試験。		
		16週	前期期末試験				
後期	3rdQ	1週	英会話		ホテルの予約、交通手段の選択などの会話を理解し、実践することができる。		
		2週	英会話		ホテルの予約、交通手段の選択などの会話を理解し、実践することができる。		
		3週	英会話		ホテルの予約、交通手段の選択などの会話を理解し、実践することができる。		
		4週	英会話		ホテルの予約、交通手段の選択などの会話を理解し、実践することができる。		
		5週	英作文		不定詞、動名詞、受動態などの構文を理解し、活用することができる。		
		6週	英作文		不定詞、動名詞、受動態などの構文を理解し、活用することができる。		

		7週	英作文	不定詞、動名詞、受動態などの構文を理解し、活用することができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	英会話	人物描写や経験などについて述べ、意見を交換することができる。
		10週	英会話	人物描写や経験などについて述べ、意見を交換することができる。
		11週	英会話	人物描写や経験などについて述べ、意見を交換することができる。
		12週	英作文	関係詞、比較、仮定法などの構文を理解し、活用することができる。
		13週	英作文	関係詞、比較、仮定法などの構文を理解し、活用することができる。
		14週	英作文	関係詞、比較、仮定法などの構文を理解し、活用することができる。
		15週	自由作文、オーラルチェック	100words程度の作文とそれを基とした口頭試験。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	60	15	0	0	10	0	15	100
基礎的能力	60	15	0	0	10	0	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	20	0	10	100
基礎的能力	70	0	0	0	20	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	法学
科目基礎情報						
科目番号	0032		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	アクセス法学（嵯峨野書院）/法の世界へ[第6版](有斐閣)					
担当教員	今田 浩之					
到達目標						
1. 法規範の特質、法分類、裁判手続の基本について説明できる。 2. 憲法の基本的人権論、司法審査理論について説明できる。 3. 民法、刑法などの原理・制度・運用について説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	法規範の特質分析や法分類の意義、裁判手続における立証責任の意義について説明できる。		法規範の特質、法分類、裁判手続の基本について説明できる。		法規範の特質、法分類、裁判手続の基本について説明できない。	
到達目標2	憲法の基本的人権に関する判例の意義と課題を説明できる。		憲法の基本的人権論、司法審査理論について説明できる。		憲法の基本的人権論、司法審査理論について説明できない。	
到達目標3	民法、刑法などの原理・制度・運用について説明できる。		民法、刑法などの原理・制度について説明できる。		民法、刑法などの原理・制度について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
1 1						
教育方法等						
概要	この科目では、具体的な法文や訴訟判例を素材に、現行法の制度・運用について検討し、各自が法的思考能力を身に付けることを目標とする。					
授業の進め方・方法	授業では、まず、「法学基礎論」で法学の基礎的知識や方法論を学び、次に「法学各論」で各法分野につき、制度や運用に関する具体的な法文や訴訟判例の検討を通じて、法的思考方法を習得する。					
注意点	日常的に、様々な現実社会の問題について、法的観点から考えてみるようにして下さい。 新しい立法や裁判の動向、権利や自由に関する時事的な話題にも積極的に目を向けましょう。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	法とは何か		社会規範としての法の特徴、法の諸分類について説明できる。	
		2週	法とは何か		社会規範としての法の特徴、法の諸分類について説明できる。	
		3週	法の解釈		法の解釈技術について説明できる。	
		4週	法の解釈		法の解釈技術について説明できる。	
		5週	裁判の構造		裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
		6週	裁判の構造		裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
		7週	裁判の構造		裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
		8週	憲法の基本的人権保障		基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
	2ndQ	9週	憲法の基本的人権保障		基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		10週	憲法の基本的人権保障		基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		11週	憲法の基本的人権保障		基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		12週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		13週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		14週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		15週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		16週	前学期末試験			
後期	3rdQ	1週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		2週	消費者保護法		特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	
		3週	消費者保護法		特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	
		4週	消費者保護法		特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	
		5週	製造物責任法		製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。	

		6週	製造物責任法	製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。
		7週	製造物責任法	製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。
		8週	刑法	罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。
	4thQ	9週	刑法	罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。
		10週	刑法	罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。
		11週	刑事訴訟法	適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。
		12週	刑事訴訟法	適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。
		13週	労働法	労働基準法、男女雇用機会均等法などについて説明できる。
		14週	労働法	労働基準法、男女雇用機会均等法などについて説明できる。
		15週	後学期末試験	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民	民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	2	
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	2	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
		地歴・公民		現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	2	
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	2	
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	2	
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2	
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	20	0	0	80
専門的能力	10	0	0	0	10	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	哲学
科目基礎情報						
科目番号	0033			科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）			対象学年	4	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	使用しません。適宜、プリント資料を配付します/高等学校倫理（第一学習社）					
担当教員	藤居 岳人					
到達目標						
1. 哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について説明できる。 2. 議論用資料作成を通して、自分の主張を明確に文章にまとめることができる。 3. 議論を通して、周囲の意見を認めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について、講義内容の詳細を踏まえて、説明できる。		哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について、講義内容の概略を踏まえて、説明できる。		哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について説明できない。	
到達目標2	論理に矛盾がなく、十分な分量で自分の主張を議論用資料として文章にまとめることができる。		十分な分量で自分の主張を議論用資料として文章にまとめることができる。		論理に矛盾があり、自分の主張が明確には文章にまとめられていない。	
到達目標3	議論に主体的にかかわり、周囲の意見を十分に尊重できる。		議論にかかわり、周囲の意見を尊重できる。		議論へのかかわりが不十分で、周囲の意見の尊重も不十分である。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	自分自身がもつさまざまな疑問に対して、徹底的に考え抜くことが哲学における基本的態度です。「哲学する」とはどのようなことかについて、西洋と日本の思想を取り上げつつ、講義してゆきます。そして、哲学上の諸問題に関する講義と議論用資料作成を・議論を通して、①それぞれの学生が「哲学する」ことができるように動機づけして、国際人として通用する柔軟な思考を養成します。②それぞれの学生が多様な価値観を認めつつ、自己の確立ができるようにします。					
授業の進め方・方法						
注意点	議論のための資料として、適宜、小レポートを提出してもらう予定です。レポートはU S Bメモリー・メール等で受けつけるので、その心づもりをしておいてください。議論は年4回を予定しています。また、講義で述べたことについて定期試験で確認する方針なので、「講義をしっかり聴く」ことを心がけてほしいと思います。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	「哲学」とは？		「哲学」と「思想」との相違について、説明できる。	
		2週	「哲学」とは？		「哲学」と「思想」との相違について、説明できる。	
		3週	「哲学」「philosophia」の語		「哲学」の語の由来・「philosophia」の語の由来について、説明できる。	
		4週	「哲学」「philosophia」の語		「philosophia」の語の由来について、説明できる。	
		5週	「哲学」「philosophia」の語		「philosophia」の語の由来について、説明できる。	
		6週	「哲学」「philosophia」の語		「philosophia」の語の由来について、説明できる。	
		7週	議論		資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。	
		8週	西洋における哲学上の諸問題 1		デカルトを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
	2ndQ	9週	西洋における哲学上の諸問題 1		デカルトを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		10週	西洋における哲学上の諸問題 2		ロック・ヒュームを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		11週	西洋における哲学上の諸問題 2		ロック・ヒュームを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		12週	西洋における哲学上の諸問題 3		カント・ヘーゲルを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		13週	西洋における哲学上の諸問題 3		カント・ヘーゲルを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		14週	西洋における哲学上の諸問題 3		カント・ヘーゲルを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		15週	議論		資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。	
		16週	前期期末試験 答案返却時間			
後期	3rdQ	1週	日本における哲学上の諸問題 1		『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		2週	日本における哲学上の諸問題 1		『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		3週	日本における哲学上の諸問題 1		『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		4週	日本における哲学上の諸問題 2		言霊の思想を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		5週	日本における哲学上の諸問題 2		言霊の思想を中心にした古代人の思想について、説明できる。	

		6週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。
		7週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
		8週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
	4thQ	9週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
		10週	日本における哲学上の諸問題 4	世阿弥を中心に中世人の思想について、説明できる。
		11週	日本における哲学上の諸問題 4	世阿弥を中心に中世人の思想について、説明できる。
		12週	日本における哲学上の諸問題 5	千利休を中心に近世人の思想について、説明できる。
		13週	日本における哲学上の諸問題 5	千利休を中心に近世人の思想について、説明できる。
		14週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。
		15週	後期期末試験 答案返却時間	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	32	8	100
基礎的能力	60	0	0	0	32	8	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	体育	
科目基礎情報							
科目番号	0034		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年		4		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材							
担当教員	新井 修						
到達目標							
1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3.運動・活動中は安全に留意して行動できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1		自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。		自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。		自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢が見られず、活動に参加できない。	
到達目標2		自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。		教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につけることができない。	
到達目標3		活動中、自己のみならず仲間も安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取る事ができる。		活動中、自分の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。		活動中、安全に留意して活動できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。					
授業の進め方・方法							
注意点		普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動してください。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 前期の体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	種目選択と実践		(1)各種目のルールを理解し説明できる。		
		2週	種目選択と実践		(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。		
		3週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		4週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		5週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		6週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		7週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		8週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
	4thQ	9週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		10週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		11週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		12週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		13週	体育大会(後期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		14週	体育大会(後期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		15週	体育大会(後期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	化学 3
科目基礎情報						
科目番号	0035		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	大学への橋渡し 有機化学(化学同人)/					
担当教員						
到達目標						
1.分子軌道から共有結合を説明できる。 2.熱化学方程式から、ヘスの法則を用いて反応熱を計算することができる。 3.基本的な有機化合物の性質を、官能基の特性から説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	分子軌道から共有結合を理解し、配位結合など基礎的な用語を説明できる。		分子軌道から共有結合を理解し、説明できる。		分子軌道と共有結合の関連性を説明できない。	
到達目標2	熱化学方程式から反応式を計算でき、活性化エネルギーや結合エネルギーを説明できる。		熱化学方程式から反応熱を計算することができる。		反応熱を計算することができない。	
到達目標3	基本的な有機化合物の性質と反応性の違いを、官能基の特性から説明できる。		基本的な有機化合物の性質を、官能基の特性から説明できる。		有機化合物の性質と官能基の特性の関連性を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	化学とは物質の変化の裏にある基本的な原理・法則を、実験や理論を通して追求していく学問である。それらの成果は様々な工業製品を通じて現在の物質文明を支えている。本講義は化学に関する基礎的な学習をふまえ、技術者として必要な化学的概念を理解することを目的としている。					
授業の進め方・方法						
注意点	1,2年生で学習した化学の内容を必ず復習し、本講義を受講してください。自学自習の課題は全部で15回出しますが、必ず自分で解決してください。課題には1,2年生の化学の範囲も含めます。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	原子の構造		(1) 原子を構成する粒子を理解sk質量数を決定できる。 (2) 電気軌道を用いて電子配置を記述できる。	
		2週	原子の構造		(1) 原子を構成する粒子を理解sk質量数を決定できる。 (2) 電気軌道を用いて電子配置を記述できる。	
		3週	化学結合		(1) 分子軌道の考えに基づき、溶融結合を説明できる。	
		4週	化学結合		(1) 分子軌道の考えに基づき、溶融結合を説明できる。	
		5週	化学結合		(1) 分子軌道の考えに基づき、溶融結合を説明できる。	
		6週	化学反応		(1) 係数を考慮して化学反応式を立式できる。 (2) 熱化学方程式から反応熱を計算することができる。 (3) 化学平衡、平衡状態を説明できる。	
		7週	化学反応		(1) 係数を考慮して化学反応式を立式できる。 (2) 熱化学方程式から反応熱を計算することができる。 (3) 化学平衡、平衡状態を説明できる。	
		8週	化学反応		(1) 係数を考慮して化学反応式を立式できる。 (2) 熱化学方程式から反応熱を計算することができる。 (3) 化学平衡、平衡状態を説明できる。	
	4thQ	9週	中間試験			
		10週	官能基と化合物		(1) 基本的な有機化合物（炭化水素、脂肪族化合物、芳香族化合物など）の性質を官能基の特性から類推、説明できる。	
		11週	官能基と化合物		(1) 基本的な有機化合物（炭化水素、脂肪族化合物、芳香族化合物など）の性質を官能基の特性から類推、説明できる。	
		12週	官能基と化合物		(1) 基本的な有機化合物（炭化水素、脂肪族化合物、芳香族化合物など）の性質を官能基の特性から類推、説明できる。	
		13週	官能基と化合物		(1) 基本的な有機化合物（炭化水素、脂肪族化合物、芳香族化合物など）の性質を官能基の特性から類推、説明できる。	
		14週	官能基と化合物		(1) 基本的な有機化合物（炭化水素、脂肪族化合物、芳香族化合物など）の性質を官能基の特性から類推、説明できる。	
		15週	官能基と化合物		(1) 基本的な有機化合物（炭化水素、脂肪族化合物、芳香族化合物など）の性質を官能基の特性から類推、説明できる。	

		16週	期末試験及び返却				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	10	0	50
専門的能力	30	0	0	0	10	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	10	0	10

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	英語の語彙・文法（1）	
科目基礎情報							
科目番号	0036		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年		4		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	Start-up Course for the TOEIC Test (成美同)、英単語・熟語ダイアログ1200（三省堂）/TOEICテスト新公式問題集 vol.1～5						
担当教員	林田 栄治						
到達目標							
1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 2.授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を理解し、運用できるようになる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	TOEICの出題傾向、出題形式を把握し、解答時間も考慮しながら適切な対応ができる。		TOEICの出題傾向を把握し、各パートの問題形式に対応できる。		TOEICの出題傾向を把握しておらず、各パートの問題形式に対応できない。		
到達目標2	授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の90%以上を暗記し、正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の60%程度を暗記し、ほぼ正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の暗記が60%未満で運用力が低い。		
到達目標3	授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を90%以上理解し、正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を60%程度理解し、ほぼ正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文の理解が60%未満で運用力が低い。		
到達目標4	TOEICスコア375点以上を獲得できる。		TOEICスコア300～375点を獲得できる。		TOEICスコア300点を獲得できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	TOEIC実践形式の問題演習を通して語彙力、文法力、聴解力、読解力を総合的に向上させ、300～375点のTOEICスコアを達成する。また、ダイアログ式の単語・熟語集を用いて、単語や熟語を暗記し、適切に運用できるようになる。						
授業の進め方・方法							
注意点	1.授業には辞書（電子辞書可）を持参すること。 2.オリエンテーションで説明するやり阿多で十分予習・復習を行うこと。 3.【重要】TOEICスコアを成績に含めるので前期に実施されるTOEICを必ず受験すること。（獲得スコアが300定位未満の場合、総合評価の「その他」の10点分が与えられない。）						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		授業の目的、自宅目標、学習方法を理解する。		
		2週	Unit 1		各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。		
		3週	Unit 2		各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。		
		4週	Unit 3		各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。		
		5週	Unit 4		各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。		

		6週	Unit 5	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		7週	Unit 6	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		8週	まとめと復習	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
	2ndQ	9週	前期中間試験	
		10週	Unit 7	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		11週	Unit 8	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		12週	Unit 9	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		13週	Unit 10	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		14週	Unit 11	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		15週	Unit 12	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。

		16週	まとめと復習	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
--	--	-----	--------	---

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	60	0	0	0	20	10	10	100
基礎的能力	60	0	0	0	20	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	英語の語彙・文法（２）	
科目基礎情報							
科目番号	0037			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	Best practice for the TOEIC Test 成美堂/対話文で覚える英単語・熟語ダイアログ 1200 旺文社						
担当教員	勝藤 和子						
到達目標							
1. 教科書・語彙集などの教材で学習した語彙を理解し、運用できるようになる。 2. 教科書で取り上げた文法事項や構文を理解し、運用できるようになる。 3. TOEIC 325点～400点に相当する読解力や聴解力を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	教科書・参考書などの教材で学習した語彙・表現を文脈の中で適切に理解し、自ら運用できる。			教科書・参考書などの教材で学習した語彙・表現を文脈の中で適切に理解できる。		教科書・参考書などの教材で学習した語彙・表現を文脈の中で適切に理解できない。	
到達目標2	教科書で取り上げた文法事項や構文を文脈の中で適切に理解し、自ら運用できる。			教科書で取り上げた文法事項や構文を文脈の中で適切に理解できる。		教科書で取り上げた文法事項や構文を文脈の中で適切に理解できない。	
到達目標3	授業で扱った英文を読解および聴解において十分に理解し、TOEICスコア400点以上を取得できる。			授業で扱った英文を読解および聴解において十分に理解し、TOEICスコア325点以上を取得できる。		TOEICスコア325点を取得できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	実戦形式のTOEIC問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図り、TOEICスコア400点以上の取得を目指す。						
授業の進め方・方法							
注意点	1.授業には辞書(電子辞書可)を持参すること。 2.【重要】後学期中にTOEIC IP テストを必ず受験すること。(325点未満は評価割合の「その他」の得点が与えられない。) 3.単語テストを実施するので、英単語・熟語ダイアログ1200(旺文社)を準備しておくこと。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション		シラバスの内容を理解する。		
		2週	Unit1 Restauranr ～ Unit6 Letter&E-mail		■TOEIC問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。		
		3週	Unit1 Restauranr ～ Unit6 Letter&E-mail		■各UnitはRestaurantやEntertainmentなどのトピック別の構成になっており、それぞれのトピックに頻出の英語表現などに慣れる。		
		4週	Unit1 Restauranr ～ Unit6 Letter&E-mail		■各Unitごとに取り上げられた人称代名詞や現在・過去の時制などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		
		5週	Unit1 Restauranr ～ Unit6 Letter&E-mail		■各Unitごとに取り上げられた人称代名詞や現在・過去の時制などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		
		6週	Unit1 Restauranr ～ Unit6 Letter&E-mail		■各Unitごとに取り上げられた人称代名詞や現在・過去の時制などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		
		7週	Unit1 Restauranr ～ Unit6 Letter&E-mail		■各Unitごとに取り上げられた人称代名詞や現在・過去の時制などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		
		8週	後期中間テスト				
	4thQ	9週	Unit7 Health ～ Unit14 Education		■TOEIC問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。		
		10週	Unit7 Health ～ Unit14 Education		■各UnitはRestaurantやEntertainmentなどのトピック別の構成になっており、それぞれのトピックに頻出の英語表現などに慣れる。		
		11週	Unit7 Health ～ Unit14 Education		■各Unitごとに取り上げられた自動詞と他動詞や副詞を作る接尾辞などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		
		12週	Unit7 Health ～ Unit14 Education		■各Unitごとに取り上げられた自動詞と他動詞や副詞を作る接尾辞などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		
		13週	Unit7 Health ～ Unit14 Education		■各Unitごとに取り上げられた自動詞と他動詞や副詞を作る接尾辞などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		
		14週	Unit7 Health ～ Unit14 Education		■各Unitごとに取り上げられた自動詞と他動詞や副詞を作る接尾辞などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		
		15週	Unit7 Health ～ Unit14 Education		■各Unitごとに取り上げられた自動詞と他動詞や副詞を作る接尾辞などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		

		16週	学年末試験 答案返却					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	60	0	0	0	10	15	15	100
基礎的能力	60	0	0	0	10	15	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	経済学	
科目基礎情報							
科目番号	0038		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	5			
開設期	後期		週時間数	後期:2			
教科書/教材	教養の政治学・経済学(学術図書出版社)/入門経済学[第4版](日本評論社)						
担当教員	今田 浩之						
到達目標							
1. 経済体制や価格機構について説明できる。 2. 国民経済計算や景気循環について説明できる。 3. 金融政策や財政政策について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	経済体制の問題点や価格機構の限界について説明できる。		経済体制や価格機構について基本的な説明ができる。		経済体制や価格機構について基本的な説明ができない。		
到達目標2	国民経済計算や景気循環について経済資料に即した説明ができる。		国民経済計算や景気循環について基本的な説明ができる。		国民経済計算や景気循環について基本的な説明ができない。		
到達目標3	金融政策や財政政策について経済資料に即した説明ができる。		金融政策や財政政策について基本的な説明ができる。		金融政策や財政政策について基本的な説明ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この科目では、経済現象に関わる基本的な概念や理論、政府などの経済政策を包括的に学習する。						
授業の進め方・方法	授業では、まず、経済学の基礎概念や理論を学ぶ。その上で、主にマクロ経済学の基本的論点について検討し、その概要と課題について説明できる能力を身に付ける。						
注意点	日常的に、家計・企業の経済問題や政府などの経済政策に主体的に関心を持つようにしてください。時事的な話題や自分の身の回りの経済現象に目を向け、授業との関連づけをしましょう。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	「経済理論」「経済体制」		経済現象と経済理論、資本主義・社会主義経済体制について説明できる。		
		2週	「経済理論」「経済体制」		経済現象と経済理論、資本主義・社会主義経済体制について説明できる。		
		3週	家計・企業		消費と貯蓄、生産と分業などについて説明できる。		
		4週	価格機構		市場と価格、均衡、独占と寡占、市場の限界などについて説明できる。		
		5週	価格機構		市場と価格、均衡、独占と寡占、市場の限界などについて説明できる。		
		6週	マーケティング戦略		経済環境分析、標的市場選定について説明できる。		
		7週	マーケティング戦略		経済環境分析、標的市場選定について説明できる。		
		8週	ブランド戦略		ブランドの分類、機能、評価基準、導入戦略について説明できる。		
	4thQ	9週	国民所得		国民経済計算、国富について説明できる。		
		10週	景気循環		景気循環、景気動向指数について説明できる。		
		11週	景気循環		景気循環、景気動向指数について説明できる。		
		12週	金融政策		金融市場、金融政策について説明できる。		
		13週	金融政策		金融市場、金融政策について説明できる。		
		14週	財政政策		財政の機能、予算類型、国債問題、租税体系について説明できる。		
		15週	財政政策		財政の機能、予算類型、国債問題、租税体系について説明できる。		
		16週	期末試験答案返却				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計	
総合評価割合	65	0	35	0	0	100	
基礎的能力	55	0	25	0	0	80	
専門的能力	10	0	10	0	0	20	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	バイオテクノロジー	
科目基礎情報							
科目番号	0039		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年		5		
開設期	後期		週時間数		後期:2		
教科書/教材	スタンダード生化学(裳華房)/図書館の化学関連の本						
担当教員	一森 勇人						
到達目標							
1. 生物機能についての化学的概念を理解できる. 2. 環境問題についての化学的概念を理解できる. 3. バイオに関するものづくりの技術を身につける方法を習得できる.							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	生物機能についての化学的概念を理解し説明できる.		生物機能についての化学的概念を理解できる.		生物機能についての化学的概念を理解できない.		
評価項目2	環境問題についての化学的概念を理解し説明できる.		環境問題についての化学的概念を理解できる.		環境問題についての化学的概念を理解できない.		
評価項目3	ものづくりの技術を身につけ、実際に応用できる.		ものづくりの技術を身につける方法を習得できる.		ものづくりの技術を身につける方法を習得できない.		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	生物機能の化学的解明を行い、その成果を人類の生存や人間生活の向上を目指して行くための学問である。生物学の基礎的知識を身につけ、エンジニアとして必要な地球環境を考える力をつけることを目的とする。						
授業の進め方・方法	講義形式で行うが、必要に応じて小テスト、レポートを実施する。						
注意点	特になし						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション		授業について内容を理解する。		
		2週	生命体の構造とメカニズム		生命体について理解する。		
		3週	1、生命体の構成要素		生命体の構成要素について理解する。		
		4週	2、エネルギー代謝 炭水化物1		炭水化物の代謝について理解する。		
		5週	2、エネルギー代謝 炭水化物2		炭水化物の代謝について理解する。		
		6週	2、エネルギー代謝 脂質1		脂質の代謝について理解する。		
		7週	2、エネルギー代謝 脂質2		脂質の代謝について理解する。		
		8週	中間テスト		合格点を取る。		
	4thQ	9週	3、生体内の化学反応 炭水化物1		炭水化物の化学反応について理解する。		
		10週	3、生体内の化学反応 炭水化物2		炭水化物の化学反応について理解する。		
		11週	3、生体内の化学反応 アミノ酸1		アミノ酸の化学反応について理解する。		
		12週	3、生体内の化学反応 アミノ酸2		アミノ酸の化学反応について理解する。		
		13週	3、生体内の化学反応 脂質1		脂質の化学反応について理解する。		
		14週	3、生体内の化学反応 脂質2		脂質の化学反応について理解する。		
		15週	まとめ		これまでの学習を理解する。		
		16週	期末テスト		合格点を取る。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	10	0	40
専門的能力	10	0	0	0	30	0	40
分野横断的能力	10	0	0	0	10	0	20

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	体育	
科目基礎情報							
科目番号	0040			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	前期:2		
教科書/教材							
担当教員	新井 修,中島 一						
到達目標							
1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3.安全に留意して運動や活動ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。			自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。		自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢が見られず、活動に参加できない。	
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。			教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。		教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につけることができない。	
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間も安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取る事ができる。			活動中、自分の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。		活動中、安全に留意して活動できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。						
授業の進め方・方法	第1週目に種目を選択・決定し、半期を通じて該当種目を実施する。準備や運営を自主的に行うことで、生涯スポーツの基礎を身につける。						
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動してください。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 前期の体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	種目選択と実践		(1)各種目のルールを理解し説明できる。		
		2週	種目選択と実践		(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。		
		3週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		4週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		5週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		6週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		7週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		8週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
	2ndQ	9週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		10週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		11週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		12週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		13週	体育大会(前期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		14週	体育大会(前期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		15週	体育大会(前期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	英語総合 2	
科目基礎情報							
科目番号	0041		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年		5		
開設期	前期		週時間数		前期:2		
教科書/教材	World in Focus(CENGAGE Learning)/						
担当教員	城本 春佳						
到達目標							
1.教材(英文エッセイ及び会話等の音声)で用いられている、英語表現を理解するために必要な語彙・語法を習得する。 2.英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解できる。 3.英語での会話やインタビュー音声を聞き、その概要を正確に理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		教材で扱われた語彙・語法を適切に文脈の中で理解し、自ら運用できる。		教材で扱われた語彙・語法を適切に文脈の中で理解できる。		教材で扱われた語彙・語法を適切に文脈の中で理解できない。	
評価項目2		400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解し、要点をまとめることができる。		400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解することができる。		400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解することができない。	
評価項目3		英語での会話やインタビュー音声を聞き、その概要を正確に理解し、要点をまとめることができる。		英語での会話やインタビュー音声を聞き、その概要を正確に理解することができる。		英語での会話やインタビュー音声を聞き、その概要を正確に理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		科学・芸術・社会問題など様々な題材を取り上げた400語程度の英文エッセイを読み、特有の語彙・語法・表現に慣れるとともにその概要を理解する。さらに、その分野に関連する英語での会話やインタビュー音声を聞き、特有の語彙・語法・表現に慣れるとともに、その概要を理解する。					
授業の進め方・方法		予習としてテキストの英文を読み、内容を理解するとともに語彙・語法・表現で分かりにくいものをチェックしておく。授業では英文についての解説を聞いて、内容や語彙・語法・表現について理解を深める。並行して、その分野に関する英語での会話やインタビュー音声を使って聴解演習も行う。復習として、授業で扱った語彙・語法・表現に関する練習問題を解き、定着を図る。					
注意点		1.授業には必ず辞書を持参すること。 2.単語テストを実施します。 3.【重要】自学自習用にノートを1冊用意すること。ルーズリーフ及びリングノートは認めません。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		シラバスの内容を理解する。		
		2週	Unit 1 Bare Bones		(1)英文エッセイを読んで、概要を把握する。 (2)英語の音声を聞いて、概要を把握する。 (3)特徴的な語彙・表現を理解する。		
		3週	Unit 2 Mummy Mystery		(1)英文エッセイを読んで、概要を把握する。 (2)英語の音声を聞いて、概要を把握する。 (3)特徴的な語彙・表現を理解する。		
		4週	Unit 3 Swim with Seahorses		(1)英文エッセイを読んで、概要を把握する。 (2)英語の音声を聞いて、概要を把握する。 (3)特徴的な語彙・表現を理解する。		
		5週	Unit 4 Mission to Mars		(1)英文エッセイを読んで、概要を把握する。 (2)英語の音声を聞いて、概要を把握する。 (3)特徴的な語彙・表現を理解する。		
		6週	Unit 5 Feed the World		(1)英文エッセイを読んで、概要を把握する。 (2)英語の音声を聞いて、概要を把握する。 (3)特徴的な語彙・表現を理解する。		
		7週	Unit 6 Into the Rain Forest		(1)英文エッセイを読んで、概要を把握する。 (2)英語の音声を聞いて、概要を把握する。 (3)特徴的な語彙・表現を理解する。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	Unit 7 Turn Up the Heat		(1)英文エッセイを読んで、概要を把握する。 (2)英語の音声を聞いて、概要を把握する。 (3)特徴的な語彙・表現を理解する。		
		10週	Unit 8 Free Fall		(1)英文エッセイを読んで、概要を把握する。 (2)英語の音声を聞いて、概要を把握する。 (3)特徴的な語彙・表現を理解する。		
		11週	Unit 9 The Hidden Lives of Leaves		(1)英文エッセイを読んで、概要を把握する。 (2)英語の音声を聞いて、概要を把握する。 (3)特徴的な語彙・表現を理解する。		
		12週	Unit 10 Getting the Shot		(1)英文エッセイを読んで、概要を把握する。 (2)英語の音声を聞いて、概要を把握する。 (3)特徴的な語彙・表現を理解する。		
		13週	Unit 11 Attack of the Germs		(1)英文エッセイを読んで、概要を把握する。 (2)英語の音声を聞いて、概要を把握する。 (3)特徴的な語彙・表現を理解する。		
		14週	Unit 12 Just like Earth?		(1)英文エッセイを読んで、概要を把握する。 (2)英語の音声を聞いて、概要を把握する。 (3)特徴的な語彙・表現を理解する。		

		15週	Unit 13 The Skin You're In			(1)英文エッセイを読んで、概要を把握する。 (2)英語の音声を聞いて、概要を把握する。 (3)特徴的な語彙・表現を理解する。	
		16週	前期末試験返却				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計	
総合評価割合	70	10	20	0	0	100	
基礎的能力	70	10	20	0	0	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	日本語の表現	
科目基礎情報							
科目番号	0042			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	前期:2		
教科書/教材	高専日本語アビリティⅠ・Ⅱ (阿南高専)						
担当教員	坪井 泰士,錦織 浩文						
到達目標							
1.敬語、表現ルールの基本を用い、ビジネス文書等を作成できる。 2.社会マナー・ルールの基本を用いた行動ができる。 3.表現法の基本を活用し、社会的なテーマについて情報収集・分類を行い、表現できる。 4.ファシリテーション、聞く技術について説明し、実践できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	敬語、表現ルールの基本を適切に用い、効果的なビジネス文書等を作成できる。			敬語、表現ルールの基本を用い、ビジネス文書等を作成できる。		敬語、表現ルールに欠ける。	
評価項目2	社会マナー・ルールの基本を適切に用いた行動ができる。			社会マナー・ルールの基本を用いた行動ができる。		社会マナー・ルールの基本に欠ける。	
評価項目3	実践的かつ即応的コミュニケーションの基本を適切に用い、意見を口頭により効果的に表出できる。			実践的かつ即応的コミュニケーションの基本を適切に用い、意見を口頭により表出できる。		実践的かつ即応的コミュニケーションの基本、意見の口頭表出に欠ける。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	社会で必要な口頭、文書表現能力の基礎を理解し、適切に使用して表現できる。						
授業の進め方・方法	LMSにより、講義VTR視聴 (テキストを用いた予習・復習を含む)、レポート提出 (教員による添削指導を含む)、チームプロジェクト等を実施する。 実授業は、それらの学習理解をふまえて討論、ファシリテーション、実技等により、振り返りを中心とする。						
注意点	LMSの活用環境を整備しておくこと。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	社会へのエントリー① (坪井)		社会の視点に立ち、面接に必要な準備、マナー等を説明し、実践できる。		
		2週	短歌・俳句 (錦織)		短歌・俳句の基本を説明し、作成できる。		
		3週	社会へのエントリー② (坪井)		種別に応じた面接技法 (個別、集団、ディスカッション) を説明し、実践できる。		
		4週	短歌・俳句 (錦織)		短歌・俳句の基本を説明し、作成できる。		
		5週	社会へのエントリー③ (坪井)		社会が求める人材像を想起し、他との差違を意識したコミュニケーションについて説明し、実践できる。		
		6週	敬語 (錦織)		敬語の基本を説明し、運用できる。		
		7週	ファシリテーション (坪井)		合意形成のためのファシリテーションについて説明し、実践できる。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	人間力① (坪井)		人材評価指標を考察し、説明できる。		
		10週	人間力② (坪井)		リーダーシップとメンバーシップの観点から、組織のあり方を考察し、説明できる。		
		11週	プレゼンテーションと聞く技術 (坪井)		ラポール、Show-See-Speak、ペーシングについて説明し、実践できる。		
		12週	電話 (錦織)		電話対応の基本を説明し、運用できる。		
		13週	記録 (錦織)		記録・報告の基本を説明し、作成できる。		
		14週	通信文 (錦織)		通信文の基本形について説明し、作成できる。		
		15週	通信文 (錦織)		通信文の基本形について説明し、作成できる。		
		16週	前期末試験答案返却				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計	
総合評価割合	75	0	25	0	0	100	
基礎的能力	55	0	15	0	0	70	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	20	0	10	0	0	30	

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	英語の語彙・文法（3）	
科目基礎情報							
科目番号	0043		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年		5		
開設期	前期		週時間数		前期:2		
教科書/教材	FAST PASS FOR THE TOEIC TEST(Rituko Uenaka他, センゲージラーニング) 英単語・熟語ダイアログ Basic 1200 三訂版（秋葉利治他,旺文社）/TOEICテスト新公式問題集 vol.1～5						
担当教員	藤井 浩美,勝藤 和子						
到達目標							
1.教科書・語彙集などの教材で学習した語彙を理解し、運用できるようにする。 2.教科書で取り上げた文法事項や構文を理解し、運用できるようにする。 3.TOEICスコア425以上を達成する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	教科書・参考書などの教材で学習した語彙・表現を適切な文脈において理解し、自ら運用できる。		教科書・参考書などの教材で学習した語彙・表現を文脈の中で理解ができる。		教科書・参考書などの教材で学習した語彙・表現を文脈の中で理解しようとしない。		
到達目標2	教科書で取り上げた文法事項や構文を適切な文脈において理解し、自ら運用できる。		教科書で取り上げた文法事項や構文を適切な文脈の中で理解ができる。		教科書で取り上げた文法事項や構文を適切な文脈の中で理解しようとしない。		
到達目標3	TOEICでスコア425以上取得できる。		TOEICでスコア375以上取得できる。		TOEICスコア325程度にとどまっている。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	TOEICスコア450以上の取得を目指し、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的英語能力の向上を図る。						
授業の進め方・方法	TOEIC実戦形式の演習形式の授業を展開する。						
注意点	TOEICスコアを成績評価の一部に含める。（ただし、過去2年以内の受験のものに限る。また、スコア350未満は原則として評価得点は与えない。）						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション Unit 1 Travel		1. シラバスの内容を理解する。 2.TOEICの出題傾向や出題形式を把握し、解答時間を考慮しながら、問題を解く。 3.TOEICテストで扱われる英文の基本構造を見抜く。		
		2週	Unit 2 Entertainment		1. .TOEICの出題傾向や出題形式を把握し、解答時間を考慮しながら、問題を解く。 2. TOEICテストで扱われる英文の基本構造を見抜く。		
		3週	Unit 3 Socializing & Food		1. .TOEICの出題傾向や出題形式を把握し、解答時間を考慮しながら、問題を解く。 2. TOEICテストで扱われる英文の基本構造を見抜く。		
		4週	Unit 4 Sports & Health		1. .TOEICの出題傾向や出題形式を把握し、解答時間を考慮しながら、問題を解く。 2. TOEICテストで扱われる英文の基本構造を見抜く。		
		5週	Unit 5 Purchasing		1. .TOEICの出題傾向や出題形式を把握し、解答時間を考慮しながら、問題を解く。 2. TOEICテストで扱われる英文の基本構造を見抜く。		
		6週	Unit 6 Housing & Accomodations		1. .TOEICの出題傾向や出題形式を把握し、解答時間を考慮しながら、問題を解く。 2. TOEICテストで扱われる英文の基本構造を見抜く。		
		7週	Review 小テスト(1)		1. .TOEICの出題傾向や出題形式を把握し、解答時間を考慮しながら、問題を解く。 2. TOEICテストで扱われる英文の基本構造を見抜く。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	Unit 7 Office Work (1)		1. .TOEICの出題傾向や出題形式を把握し、解答時間を考慮しながら、問題を解く。 2. TOEICテストで扱われる英文の基本構造を見抜く。		
		10週	Unit 8 Office Work (2)		1. .TOEICの出題傾向や出題形式を把握し、解答時間を考慮しながら、問題を解く。 2. TOEICテストで扱われる英文の基本構造を見抜く。		
		11週	Unit 9 Employment		1. .TOEICの出題傾向や出題形式を把握し、解答時間を考慮しながら、問題を解く。 2. TOEICテストで扱われる英文の基本構造を見抜く。		
		12週	Unit 10 Lectures & Presentations		1. .TOEICの出題傾向や出題形式を把握し、解答時間を考慮しながら、問題を解く。 2. TOEICテストで扱われる英文の基本構造を見抜く。		
		13週	Unit 11 Business Affairs (1)		1. .TOEICの出題傾向や出題形式を把握し、解答時間を考慮しながら、問題を解く。 2. TOEICテストで扱われる英文の基本構造を見抜く。		
		14週	Unit 12 Business Affairs (2)		1. .TOEICの出題傾向や出題形式を把握し、解答時間を考慮しながら、問題を解く。 2. TOEICテストで扱われる英文の基本構造を見抜く。		
		15週	Review 小テスト(2)		1. .TOEICの出題傾向や出題形式を把握し、解答時間を考慮しながら、問題を解く。 2. TOEICテストで扱われる英文の基本構造を見抜く。		

		16週	期末試験返却				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計	
総合評価割合	65	15	10	0	10	100	
基礎的能力	65	15	10	0	10	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	

阿南工業高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語の語彙・文法（４）
科目基礎情報				
科目番号	0044	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）	対象学年	5	
開設期	後期	週時間数	後期:2	
教科書/教材	FAST PASS FOR THE TOEIC TEST(CENGAGE Learning)/TOEIC テスト新公式集 vol.1~5(TOEIC運営委員会)			
担当教員	林田 栄治			

到達目標

- 1.教科書・語彙集などの教材で学習した語彙を理解し、運用できるようになる。
- 2.教科書で取り上げた文法事項や構文を理解し、運用できるようになる。
- 3.TOEIC450点以上に相当する読解力や聴解力を身に付ける。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	教科書・参考書などの教材で学習した語彙・表現を文脈の中で適切に理解し、自ら運用できる。	教科書。参考書などの教材で学習した語彙・表現を文脈の中で適切に理解できる。	教科書。参考書などの教材で学習した語彙・表現を文脈の中で適切に理解できない。
評価項目2	教科書で取り上げた文法事項や構文を文脈の中で適切に理解し、自ら運用できる。	教科書で取り上げた文法事項や構文を文脈の中で適切に理解できる。	教科書で取り上げた文法事項や構文を文脈の中で適切に理解できない。
評価項目3	授業で扱った英文を読解及び聴解において十分に理解し、TOEICスコア450点以上を取得できる。	授業で扱った英文を読解及び聴解において十分に理解し、TOEICスコア400点相当を取得できる。	TOEICスコア400点相当を取得できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	TOEICスコア450点以上の取得を目指し、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。
授業の進め方・方法	
注意点	1.授業には辞書（電子辞書可）を持参すること 2.授業には必ず予習をして臨むこと 3.【重要】後学期TOEIC IPテストを必ず受験すること（成績評価に反映させます） 4.単語テストを実施するので、英単語・熟語ダイアログ1200（旺文社）を準備すること

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	シラバスの内容を理解する。
		2週	Unit 1 Travel ~ Unit 6 Housing & Accommodations	■TOEIC対策問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。
		3週	Unit 1 Travel ~ Unit 6 Housing & Accommodations	■TOEIC対策問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。
		4週	Unit 1 Travel ~ Unit 6 Housing & Accommodations	■TOEIC対策問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。
		5週	Unit 1 Travel ~ Unit 6 Housing & Accommodations	■TOEIC対策問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。
		6週	Unit 1 Travel ~ Unit 6 Housing & Accommodations	■TOEIC対策問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。
		7週	Unit 1 Travel ~ Unit 6 Housing & Accommodations	■TOEIC対策問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。
		8週	総合中間テスト	
	4thQ	9週	Unit 7 Office Work(1) ~ Unit 12 Business Affairs(2)	■TOEIC対策問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。
		10週	Unit 7 Office Work(1) ~ Unit 12 Business Affairs(2)	■TOEIC対策問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。
		11週	Unit 7 Office Work(1) ~ Unit 12 Business Affairs(2)	■TOEIC対策問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。
		12週	Unit 7 Office Work(1) ~ Unit 12 Business Affairs(2)	■TOEIC対策問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。
		13週	Unit 7 Office Work(1) ~ Unit 12 Business Affairs(2)	■TOEIC対策問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。
		14週	Unit 7 Office Work(1) ~ Unit 12 Business Affairs(2)	■TOEIC対策問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。
		15週	Unit 7 Office Work(1) ~ Unit 12 Business Affairs(2)	■TOEIC対策問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	20	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	中国語	
科目基礎情報							
科目番号	0045			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	後期:2		
教科書/教材	中国語 初めの一步 白水社						
担当教員	鄭 涛						
到達目標							
1.中国の文化と生活に関する基礎的な知識を理解する。 2.中国語の発音と基本な文法を理解し、基礎的な日常会話ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	中国語の社会事情、文化、生活に関することについて興味を持ち、理解できる。			中国の社会事情、文化、生活に関することについてある程度理解できる。		中国の社会事情、文化、生活に関することについての理解に欠ける。	
評価項目2	発音記号を見て、中国語を正しく発音できる。			発音記号を見て、中国語を発音できる。		発音記号による発音ができない。	
評価項目3	簡単な日常会話が流暢にできる。			簡単な日常会話ができる。		簡単な日常会話ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	中国の社会事情、生活・文化に関する基礎的な知識を理解するとともに、中国語の発音と表現に関する基礎知識、及び基礎的な会話を学習する。						
授業の進め方・方法	授業は会話に関する学習と練習を基本とする。						
注意点	外国語の勉強がしゃべることが大事なので、授業中、積極的な態度で声を出すこと。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンスとオリエンテーション		シラバスにより到達目標、評価割合、達成度基準などを理解する。中国の社会事情、文化・生活、中国語の基本に関することを理解する。		
		2週	中国語の基礎：発音（母音）		発音記号を使って、中国語の発音ができる。		
		3週	中国語の基礎：発音(子音)		発音記号を使って、中国語の発音ができる。		
		4週	あなたは中国人ですか		「～は～である」を使って会話ができる。		
		5週	これは何ですか		疑問文に関する会話ができる。		
		6週	あなたはどこに行きますか		動詞を使える。		
		7週	このバッグはどうですか		形容詞、量詞の使い方が分かる。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	あなたは午後用事がありますか		数字、日付、時刻の表現ができる。		
		10週	あなたは食事をしましたか		完了形を使える。		
		11週	あなたの家族は何人ですか		存在を表す動詞を使って会話ができる。		
		12週	あなたは何時からアルバイトを始めますか		時間量に関する言葉の使い方を習得する。		
		13週	あなたはアメリカに行ったことがありますか		過去の経験に関する文法を習得する。		
		14週	あなたは歌を歌えますか		動作の様態を理解する。		
		15週	あなたは何をしていますのですか		動作の進行を表す表現を習得する。		
		16週	試験		試験		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計	
総合評価割合	80	20	0	0	0	100	
基礎的能力	80	10	0	0	0	90	
専門的能力	0	10	0	0	0	10	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	